北支

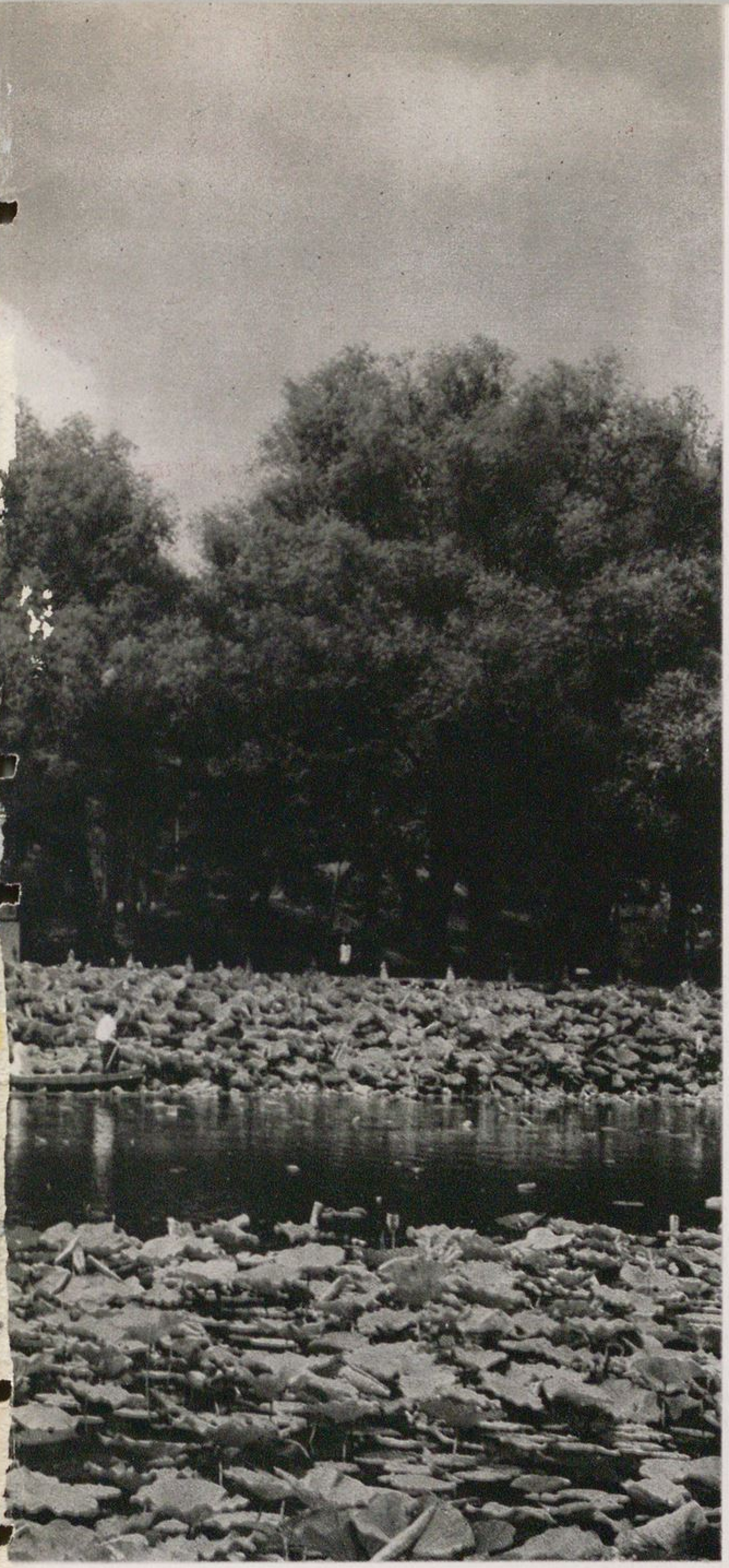
現地編輯

THE NORTH CHINA



8

蓮



LOTUS IN PEI-HAI PARK, PEKING



俺說一
誰說一
甚麼開花兒在水裡
儞說一
俺說一
蓮花開花兒在水裡

一つわたしが尋ねます
誰か答へてご覧なさい
水に咲くのは何の花



北京・北海

あなたのおたづねに
わたしがお答いたします
水上咲くのは蓮の花

これは開封附近の支那民謡で、一から十までの花問答の第一節である。

周茂叔は愛蓮の説を書いて、蓮は花の君子なる者なりといひ、牡丹の富貴を愛する者多くして、眞に花の君子を愛する人及び之を愛するに足る高節の士の少いことを歎いた。それは宋代の話。

蓮歩と謂ひ歩々蓮と謂ふ、これは杏の唇、芙蓉の顏、楊柳の腰と共に麗人の歩みをたたへたものだ。

いま、北京の故宮を繞る池塘、北海、中海、南海、何處も蓮ならざるはない。美人採蓮の圖は天上のものであり、地上のものである。

北支の棉花

1

世はあげてスフ時代、「純綿」のレッテルが店頭で巾を利かせる御時世だ。むしろ今ごろ「純綿」だなどと威張るのは、嚴たる國策を辨へぬ不埒者になりさうである。だが、わが國の紡績界の躍進は素晴らしく、近代産業の曙光を浴びて以來世界に君臨してきた英國のマンチエスターをノック・アウトして堂々世界制覇の榮位をかち得た今日國內には一俵の原料棉もとれず總てを外國產に頼つてゐる現狀は情ない。それも年額一千三百八十萬ピクル（昭和十二年・一ピクルは約百斤）金高にして八億五



棉花の摘とり

千萬圓といふ巨額を、しかもその半分以上は、いま天津租界問題で火花を散らしてゐる英國領のインドから輸入してゐるのである。*





*この事實は、日本を取卷く國際情勢からも貿易收支から見ても生やさしい問題ではない。輸出を旺盛にして國際收支を改善するためには、輸出貿易の支柱たる綿製品をどし〳〵増産せねばならない。すると、それだけ原料棉の輸入が増えるといふヂレンマに逢着するのだ。だから國民には代用品で我慢させる一方、朝鮮、滿洲、北支を含めた日本の勢力圏内における自給對策が懸命に研究されてゐるのである。朝鮮と滿洲には棉花増産二十ヶ年計畫といふ遠大な理想を掲げられてゐるが、豫定通りの生産が實現しても、これによつて鮮滿から供給し得る棉花はわが國需要量の一割見當に過ぎぬといふ。いきほひ世界第三位の棉花生産高を持つ支那、特に北支の棉花に俟つより外はないことになる。

……

眞夏八月、北支を旅行すれば大雪原さながらの棉畑の壯觀が見られる。黃河を中心とする一帶の平野は、氣候も地味も棉の栽培には最も適してゐて、今日ですら年産五百餘萬ピクル、全支產額の三割强を占めてゐる。その反當り收穫高は、ブラジルとほゞ同量の三十六斤をあげて世界第二位、採算の點からも小麥、粟、大豆などの一畝當り純益僅かに十五錢(昭和九年)であるのに對し、棉作は六十錢近くで遙かに有利である。お隣りにこれだけの棉花が在りながら、從來は種々の事情のためわが國に輸入される支那棉花はまことに微々たるもので僅かに四十萬ピクル前後、全輸入量の三分に過ぎなかつた。日本の原料棉確保の必要に應じ、また疲弊せる農民を更生せしめるため、臨時政府は日本機關の協力を得て棉花の増産改良を計る傍ら、農民には有利な棉作への轉作を奬勵してゐる。その科學的技術的指導に當つてゐるのは華北交通會社の通縣農事試驗場、増產計畫の實行に當るものは今春成立した華北棉產改進會である。その計畫によれば十年後の北支棉產は一千萬ピクルとなり、品種も優秀なアメリカ種に一新して日本を樞軸とする東亞の紡績業に不動の基礎を與へようといふのである。つぎに北支三省の棉作の現狀を見れば第一位は河北省で年產三百萬ピクル、山東二百萬ピクル、山西六十萬ピクルの順である。×



乾燥



棉

2

集積された棉花——天津商品檢驗所



運搬



棉

3

×河北省の主要地は南部京漢線を中心とする西河區と東南部の御河を中心とする御河區、京山線から長城に至る東北河區の三つに分れる。このうち西河棉は量は多いが纖維短く、御河棉も粗毛品、たゞ東北河棉は量は少いが通縣農事試驗場のお膝元にアメリカ種の優良棉である。全體に河北棉の七割までは粗惡な在來棉で、今後の改良に俟つべきものが多い。山東省は年產二百萬ピクル、產地は黃河々口東方の小淸河一帶でアメリカ種の多いことが特色。山西省は同蒲線南部を中心として今後に期待される。

……

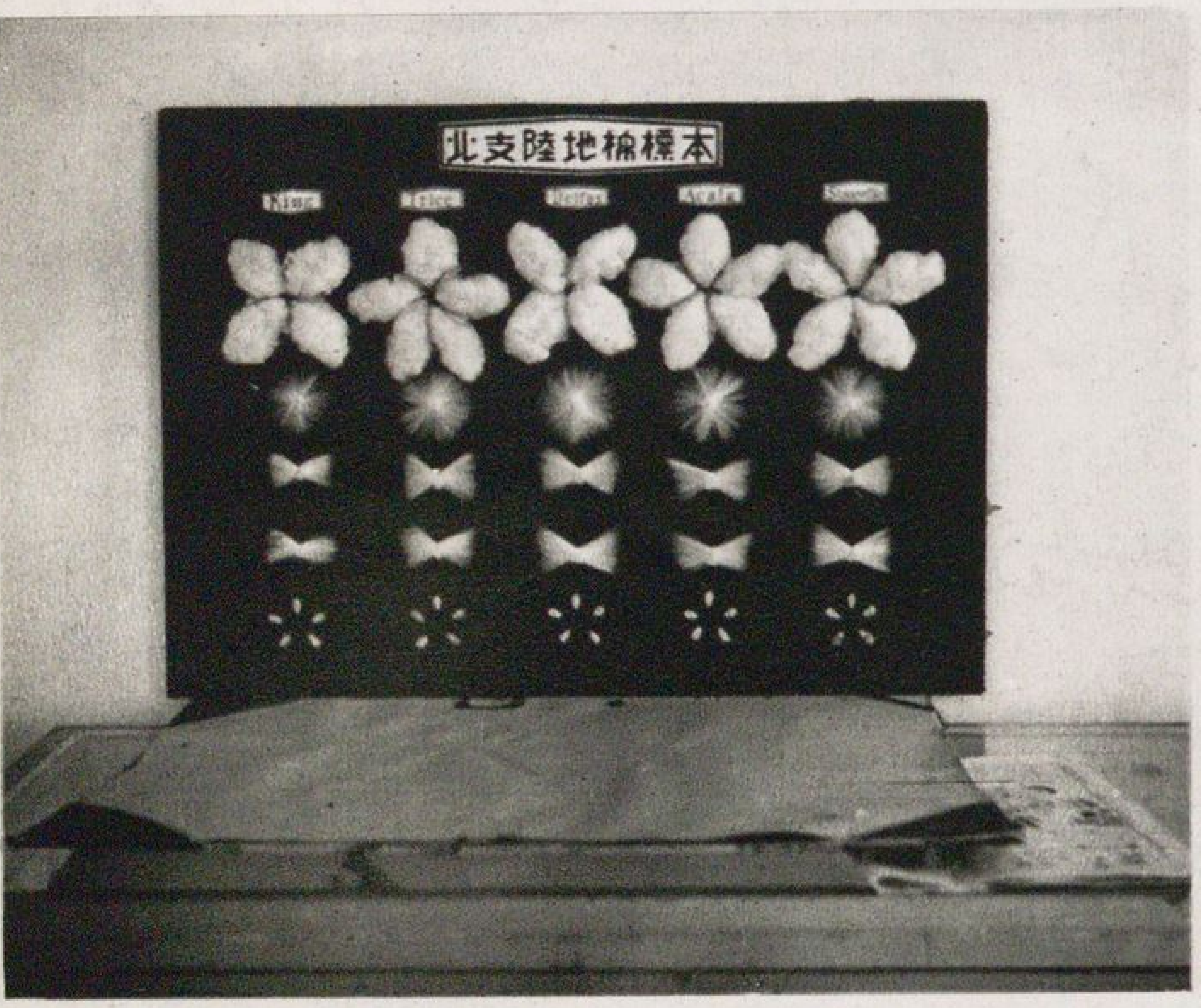
春三月、凍土がゆるむのを待ちかねて農民たちは野良の耕作を始める。やがて楊柳の芽ぐむころ種を下ろされた棉は、五、六月の陽を浴びてアルカリ性の黃土からすく〳〵伸び、八月にはもう純白の花をつける。澄みわたつた紺碧の秋空の下、女も子供も一家打揃うての棉つみは、土に生きる者のゆたかな情景をくり展げる。



積出し――天津驛



棉花の試驗栽培




棉花の比重檢査

通縣農事試驗場

通縣農事試驗場は、現華北交通會社副總裁殷同氏が北寧鐵路管理局長時代、關東軍特務部の援助によつて昭和九年に創設した棉作試驗場の後身である。初めは北寧沿線（今の京山線）に棉花の栽培を奬勵することを目的としてゐたが、滿鐵から技術員の派遣を得て積極的に北支全域の棉花について調查研究を進めてきたのであつた。この間、昭和十二年七月の通州慘劇に遭ひ、試驗場に立籠つてゐた滿鐵社員四名はいづれも悲壯な最期を遂げ、他の二名も激務のため病歿するなど、嘗てこの試驗場に勤務した滿鐵社員は悉く北支開發の礎石として職に殉じてゐる。

棉花の改良增產といふも急速には望み得ない。土地に適する優良種子を作り上げ、之を配給して農民が實績をあげるまでには少くとも十年はかゝるといふ。北支棉花に對する日本の期待に添ふべく、試驗場は默々と眞摯な研究をつゞけてゐる。



芝罘

水邊

北支には海水浴場が少く、滿支國境の山海關から四十分でつく北戴河、膠濟線起點の青島、山東半島渤海岸の芝罘、以上三つしかない。

北戴河は日本人にはあまり知られてゐないが、支那に在住する歐米人間には早くから有名で、北京、天津に住む歐米人でひと夏をこゝに過さない人は先づないといつても良い位、外國の官廳、銀行、軍隊が夏中そつくりここに移住するとさへ云はれる。

嘗て張學良は奉天にゐない時は必ずここにゐたと言はれ立派な別莊を持つてゐた。華北交通會社もこゝに諸施設を本年度から設けてゐる。

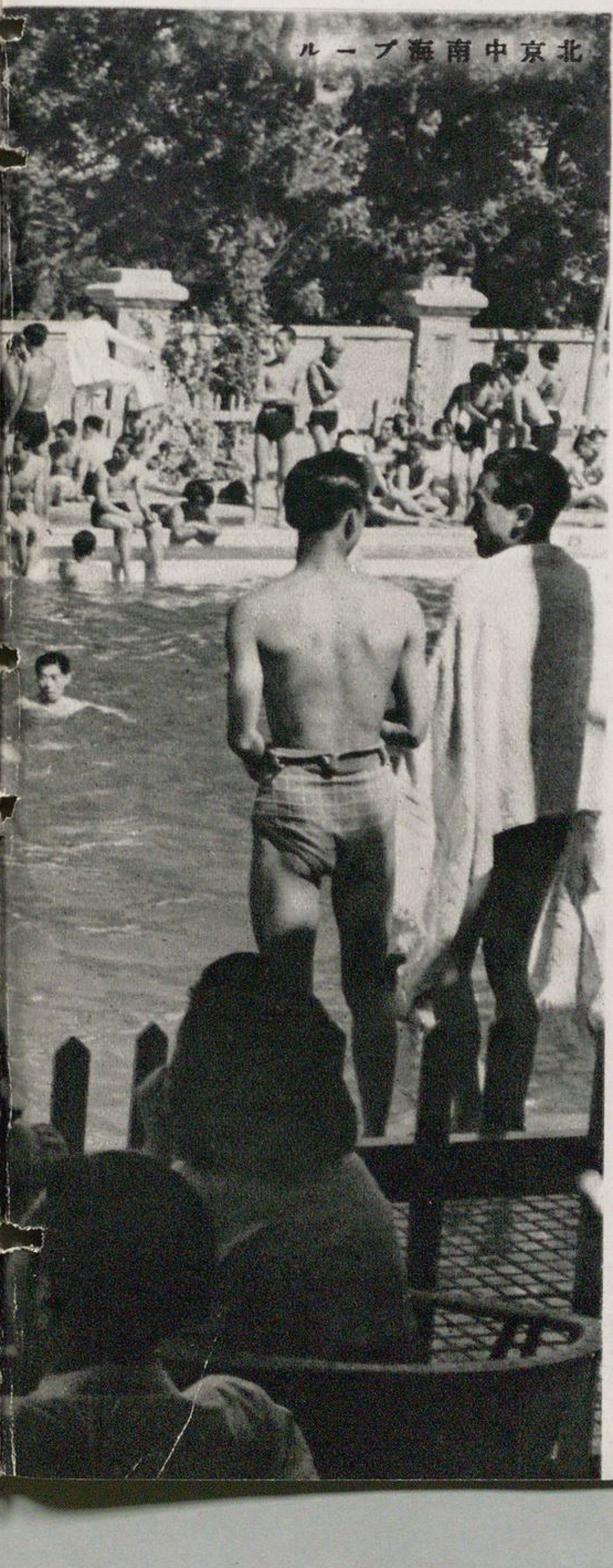
青島の海水浴場は、忠の濱、舞鶴濱三ケ月濱その他五ケ所ばかりあり、毎年夏になれば、天津、北京、上海、漢口、香港あたりから一千數百名の自動車携帶の避暑客が殺到し、ストランドホテルやグランドホテルは大入滿員になるのが毎夏の例である。

芝罘は鐵道の便がなく街自身は年々衰微する一方であるが夏は涼しい健康地で、六月から十月上旬にかけて毎年數十隻の米國艦隊が入港して賑ふ。

以上三つとも外國人が自分たちの爲に開いた海水浴場で支那人自身は泳ぐことを殆んどしない。日本の様に海國でない爲と、習慣としてどんなに暑くてもズボン、靴下はぬがない。素足を見せる事を極端に嫌ふからであらう。もつとも清朝時代に北京の北海公園で當時の武士が水練をしたと言ふ記錄があるが、これは特殊である。

然し時の流れはこの老大國にも新興スポーツとして水泳が輸入され外人倶樂部を除いた北京唯一のプールが北京の眞中、中南海公園の中に作られた。けれども泳ぐことを樂しむと言ふより外國商店で買つた海水着を着、外國の寫眞週刊雜誌を小脇にかゝへてプールにゐることにアメリカ的感覺を自ら滿足させてゐるモダンボーイ、モダンガールが多い。

但し事變以來、泳ぐことの好きな日本人がどつと押しかけてきて、この八月、百二十度の炎天下のプールは芋を洗ふやうに賑つてゐる。


北京中南海プール



北戴河海岸



青島



夏のものうり 一

PEDLERS IN PEKING



アイスケーキ賣りも文字の國だけに賣氷棍（マイピンコ）



客呼びには眞鍮製の盃をこんな風に片手でチャン／＼鳴らす

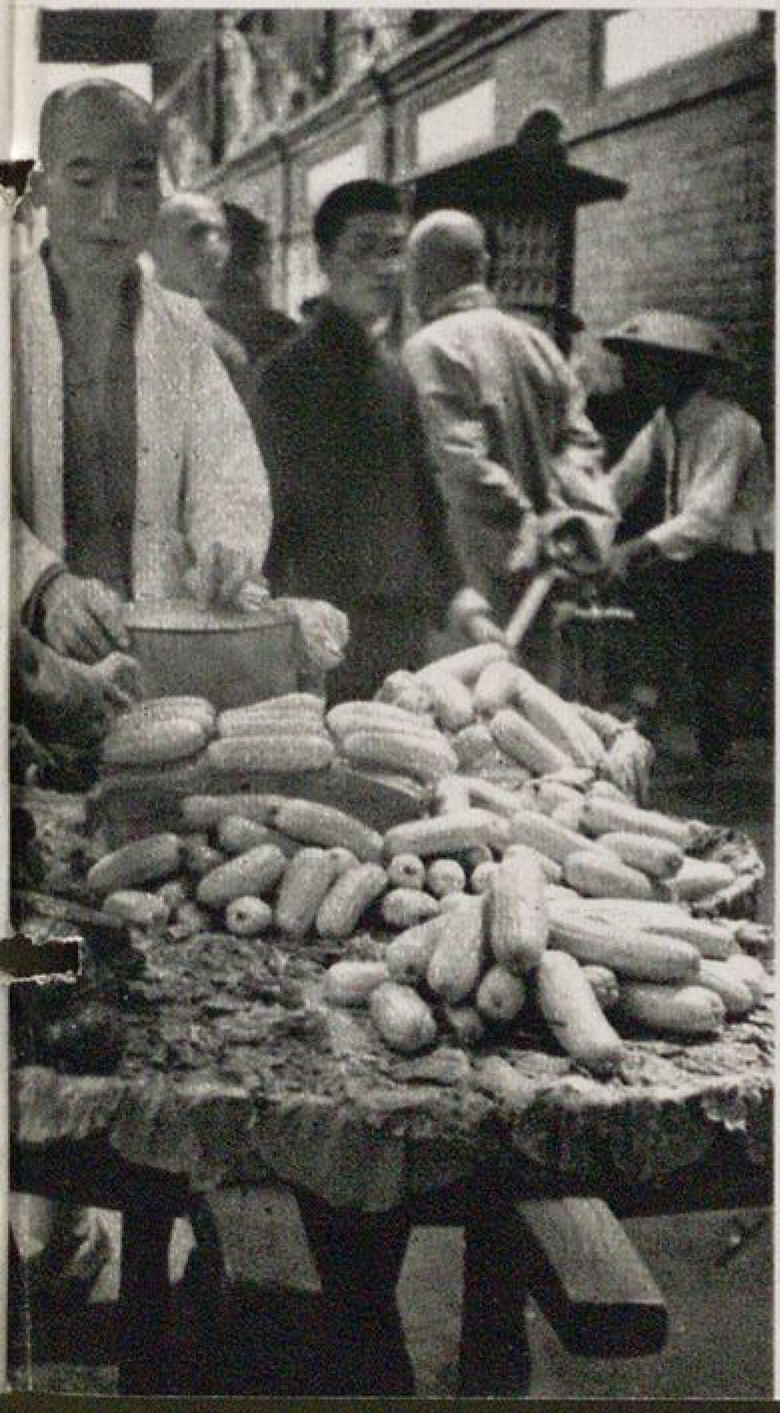
その日暮しの小商ひもあくせくせずにのんびりと、商ふ品も風情のあるところさすがに北京は古い都だ。

夏ぶんは特に露店が増える。目も眩むやうなかん／＼照りの大路小路のアカシアの蔭に賣涼貨（マイリァンホウォ）（夏のもの賣り）が陣取つて客呼びの氷盞（ピンツァヌ）（眞鍮の盃）をチャンチャラ、お客があらうとなからうと一日中涼しい澄んだ金屬的な音をたてる。賣られる品も、菖蒲細工、扇、ちまきと古都の匂を盛つた雅かなもののほかアイスケーキやラムネなどの涼味も喜ばれてゐる。

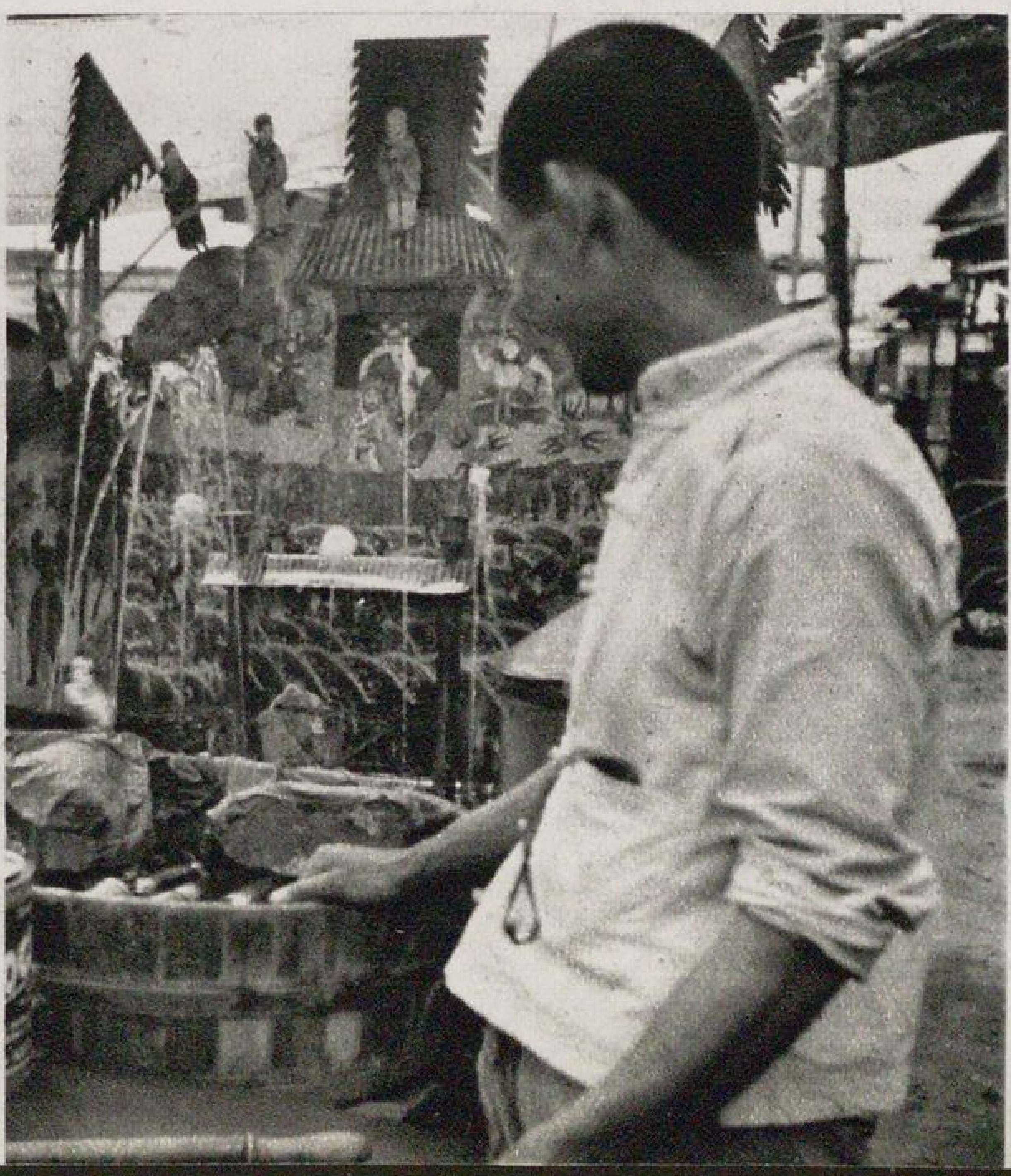
このごろは日本人が増えたので邦人相手に金魚、蟲、ひよこ、犬猫から書畫骨董まで、何を竝べても商賣になるらしく多種多様に大道にささやかな店を開くやうになつた。

もの賣りのたてる氷盞（ピンツァヌ）や鈴、さては洋鉄みたいな音叉等々、とり／″＼の鳴りものに交つて、ながく引いた調子好い呼び聲は百二十度の暑さに喘ぐ北京に爽かな涼風をもたらす。

瓜賣り、水やお茶代りに大根、瓜など野菜を生のまゝ喰べる



極彩色の芝居舞臺に瀧の白糸もどきに水をふきあげるサイダー賣り



ひよこ賣り

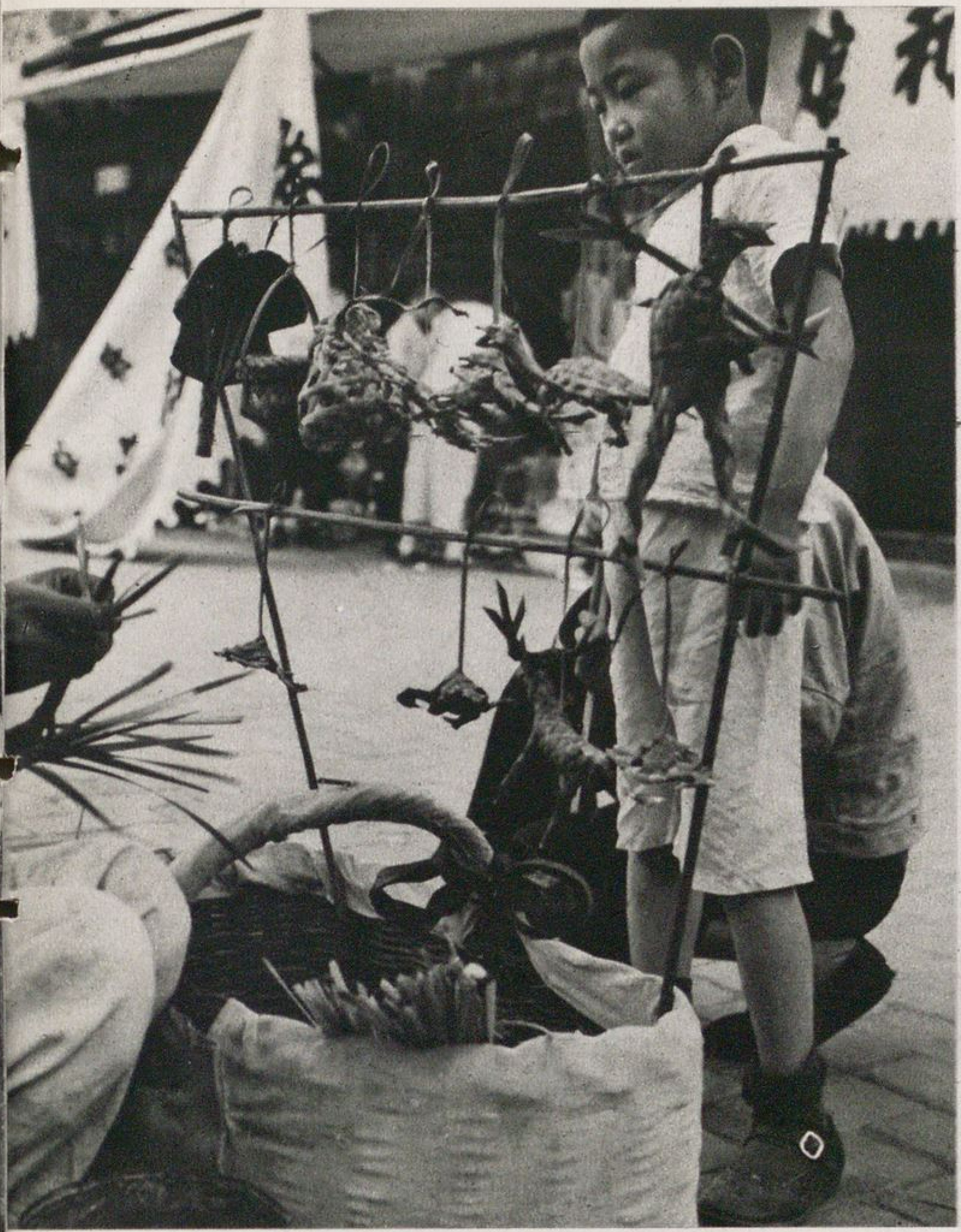




夏のものうり 二



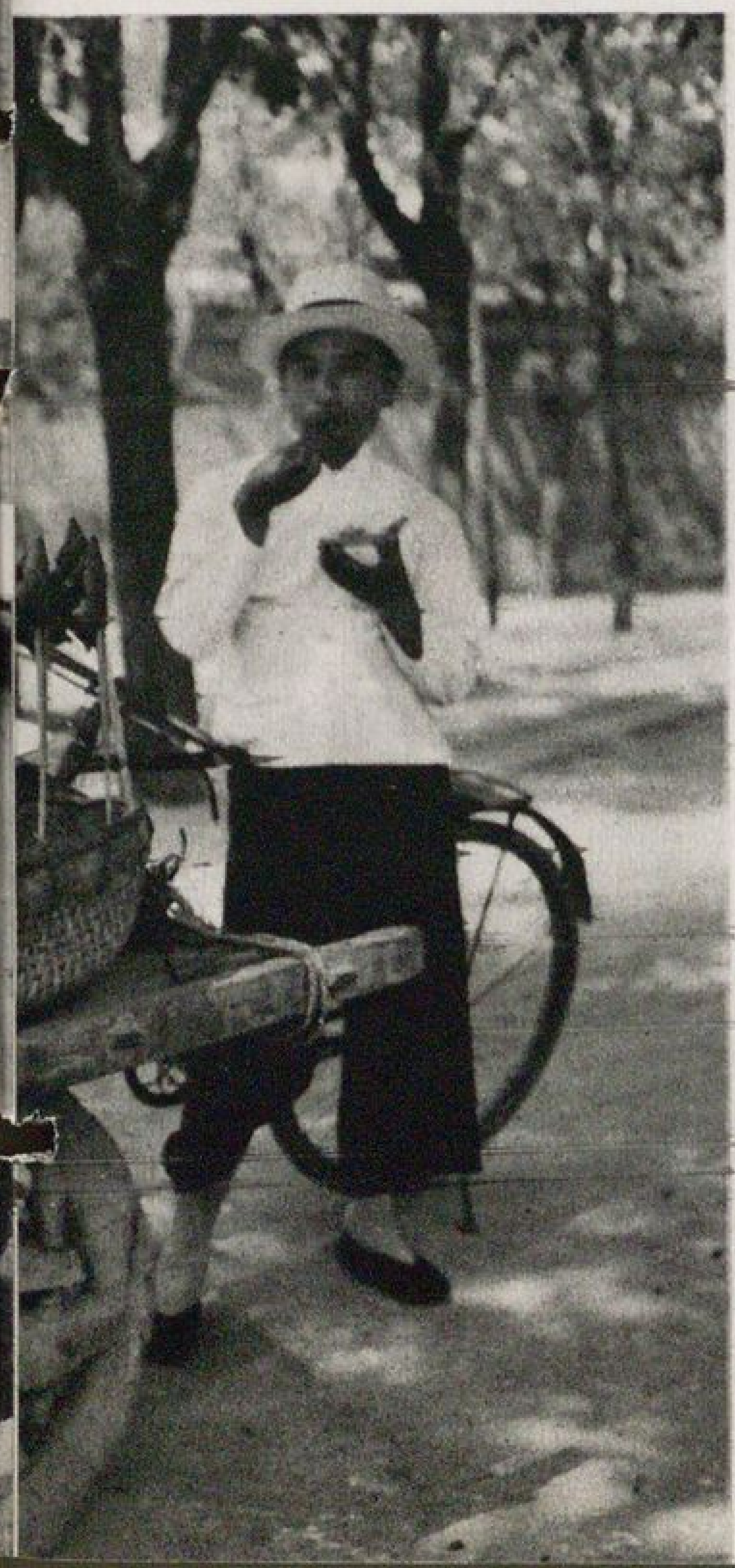
菖蒲細工の蛙



菖蒲細工賣り、ろば、らくだ、龜、蛙、土地柄さそりなど註文に應じてまたたく間に作る、一つ五錢



扇賣り、箱を擔いで歩くと鈴が鳴つて呼び聲に代はる



ちまき賣り、三角形でなつめ入り、砂糖をつけて喰べる



水賣り、冷たい井戸水を一輪車で賣り歩く、一桶二錢





金魚賣り、日本産の龜は金龜（チンコイ）と呼ばれて一匹六十錢から一圓



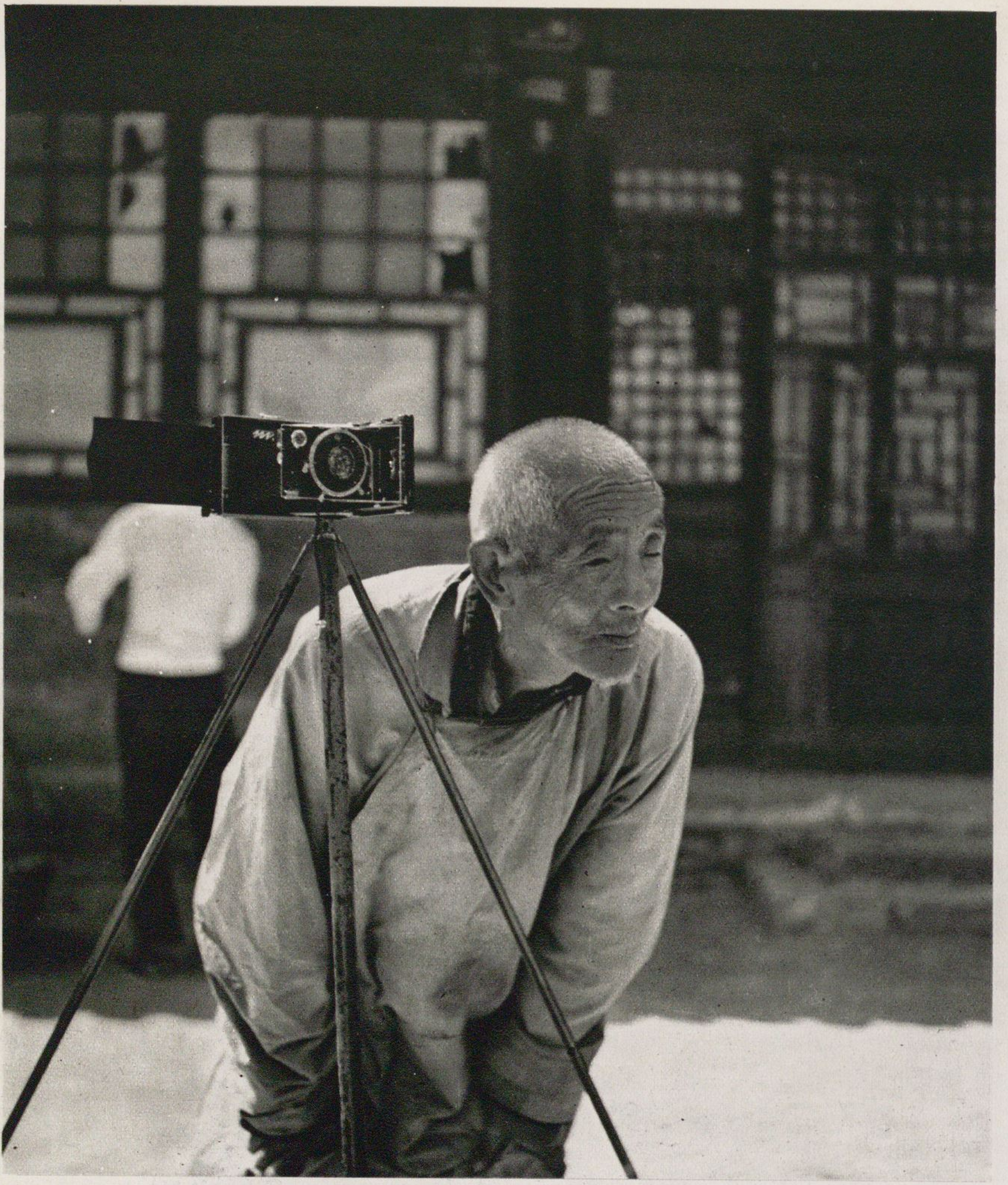
閑



らくだ
らくだ
お鈴はないか
まだ道や遠いぞ
らくだのお眞似は
上手でせう

AHA!





アイヤ
こりや生きちよるだか

これは北京郊外香山の臥佛寺の門番爺さん。この寺には有名な大臥佛と印度渡來の沙羅の双樹が在るので內外人の訪れる者も多い。沙羅樹の下で記念撮影が始るといつの間にやらこの爺さんが現れて寫眞機に近づきジーツと鳴るセルフ・タイマーの音に、さも仔細らしく聞耳を立てる。ハ、ア、文明の利器が珍らしいんだなと見てゐると、シヤツターが下りたトタン、ニツコリ笑つて「ハイ、錢くだされ!」と手をだす。みんながセルフ・タイマー附きの寫眞機を使ふので、爺さんすツかり心得てしまつたものらしい。



GENERAL VIEW OF HOHO-HOTO, THE CAPITAL OF MENG CHENG

厚和

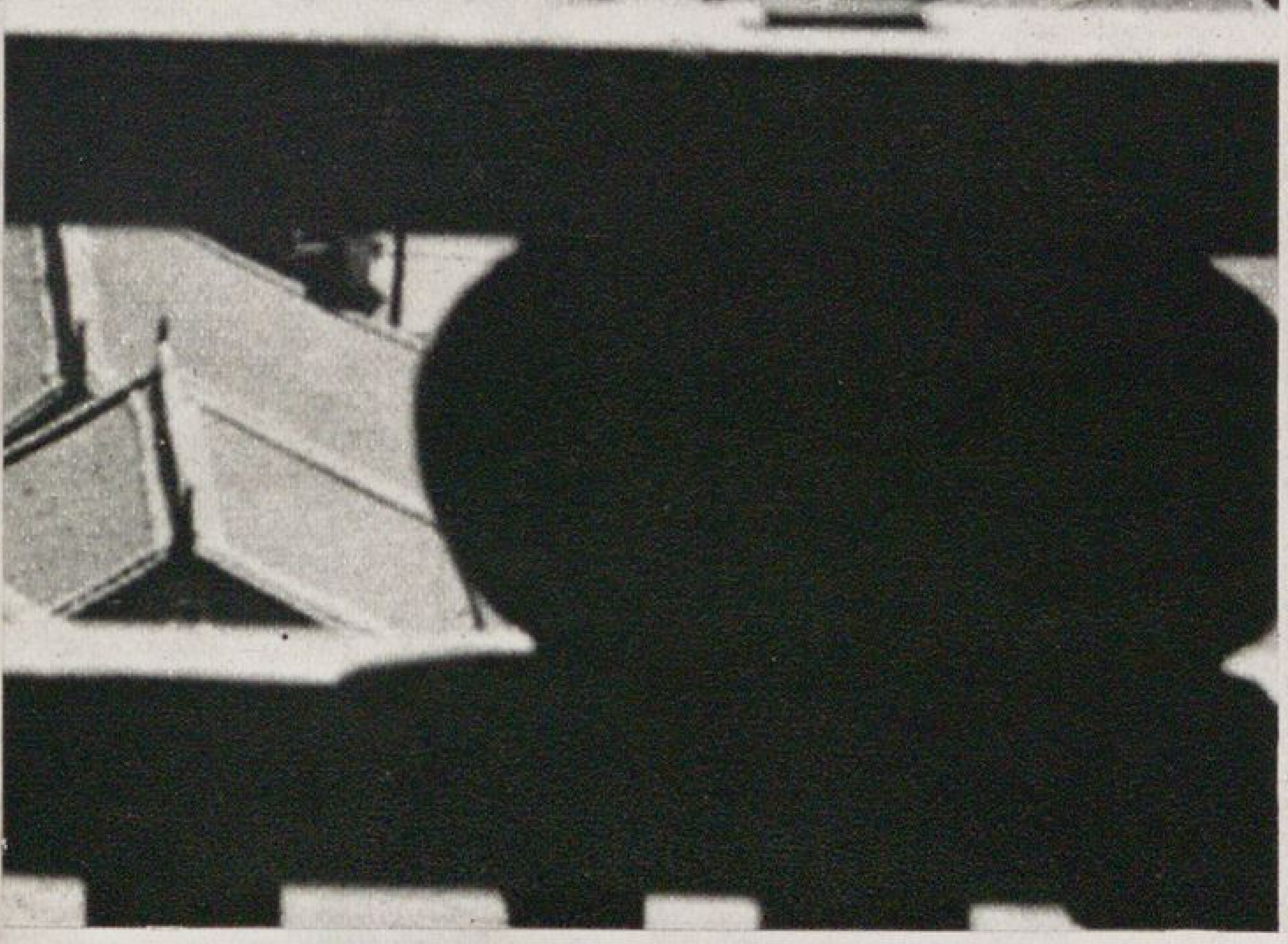
厚和は新興の意氣に燃える蒙疆聯盟の首都である。山西の殺虎口を北に距る二百里と昔の本には書いてある。今は大同を西に二八五・二粁、包頭を東に一四七・八粁、京包線の主要都市、人口約九萬を數へる。

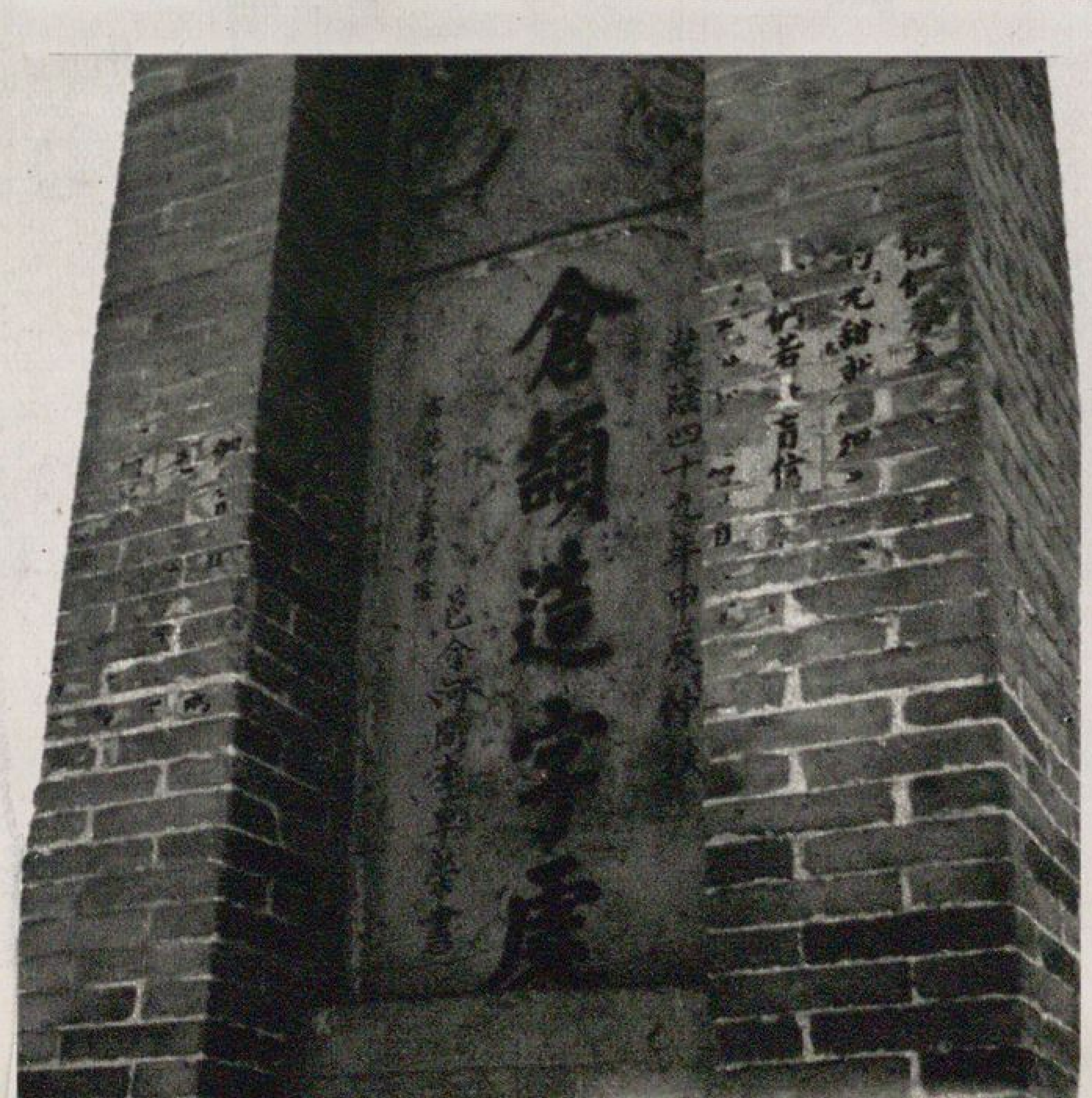
此地は最近まで歸綏と云つた。歸綏は歸化城と綏遠とを一緒にしたもの、



而して歸化城とは明代韃靼王俺答の城を呼んだ名、綏遠とは舊城市に續く清代の新市街名である。古い支那史や支那文學に於ては今の京包線は化外朔北の地である。厚和の北に連なる陰山々脈は漢人北邊の守、胡馬をして之を越えざらしむることが唐人の理想であつた。厚和の南郊に青塚といふのがあつて明妃王昭君の墓と傳へる。馬上琵琶を抱いて泣く泣く匈奴の王に嫁いだ美人の傳説は、戯曲漢宮秋に依て更に潤色され、夥しく後代子女の涙をしぼつたのだ。我々も亦古い歴史や文學を讀んで往々支那中心、長安中心にものを考へる弊に陥つてゐる。綏遠いと思つた所が却て近いのである。蒙疆は支那本部に先だつて新秩序を立てた。蒙族は漢族と共に我と協力して新東亞を建設すべくいそしんでゐる。時代は變つたのである。







黄帝の時蒼頡初めて字を造る



汾にある擊壤處の石拓

LINFEN-HSIEN, AN ANCIENT CAPITAL OF SHANSI DISTRICT AND RIVIVED FESTIVITIES OF EMPEROR YAO (1)

臨汾

（その一）

山西太原の南、汾水の平野に古城市臨汾がある。古くは平陽と稱した。帝堯唐陶氏の都するところ。

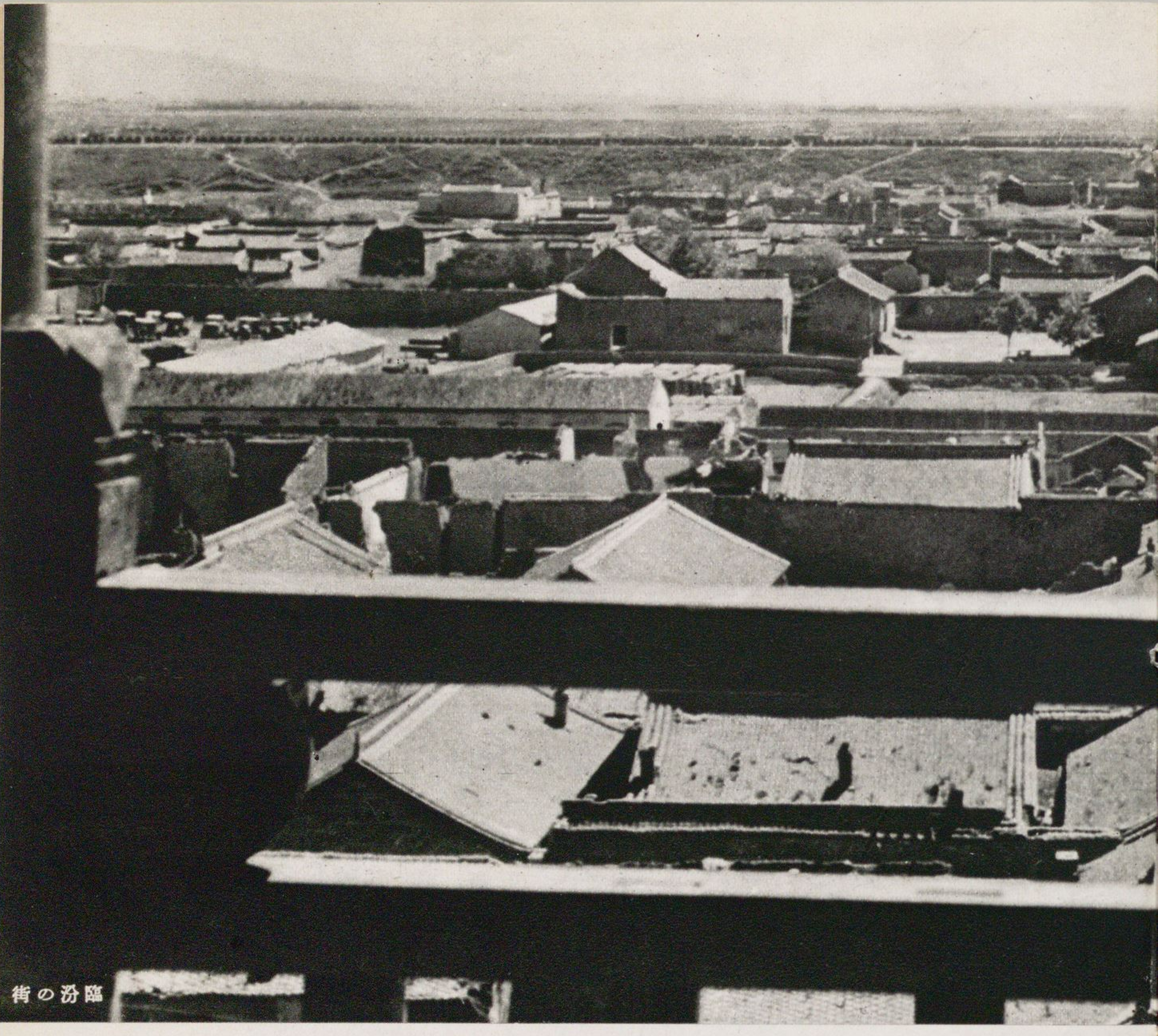
唐虞の事尤も考へ難きこと多しと學者は曰ふ、その通りである。だが、唐虞三代と讃へ堯舜の聖世と稱して歴代政治風敎の理想となり、傳誦數千年、今日皇軍堯廟を祭ると聞けば遠近の民雲集跪拜する、蓋し民心の裡にまだ生きて居ると謂ふべきであらう。

尙書は堯典に筆を起して其德を讃め、「四表に光被し上下に格る、克く俊德を明にして九族を親しむ、九族既に睦しくして百姓を平章す、百姓昭明にして萬邦を協和す」と記して居る。太史公は「其仁は天の如く其知は神の如し之に就くこと日の如く之を望むこと雲の如し」と書いた。澆季の世になればなる程、頌めても頌め足りない理想の君主で彼はある。

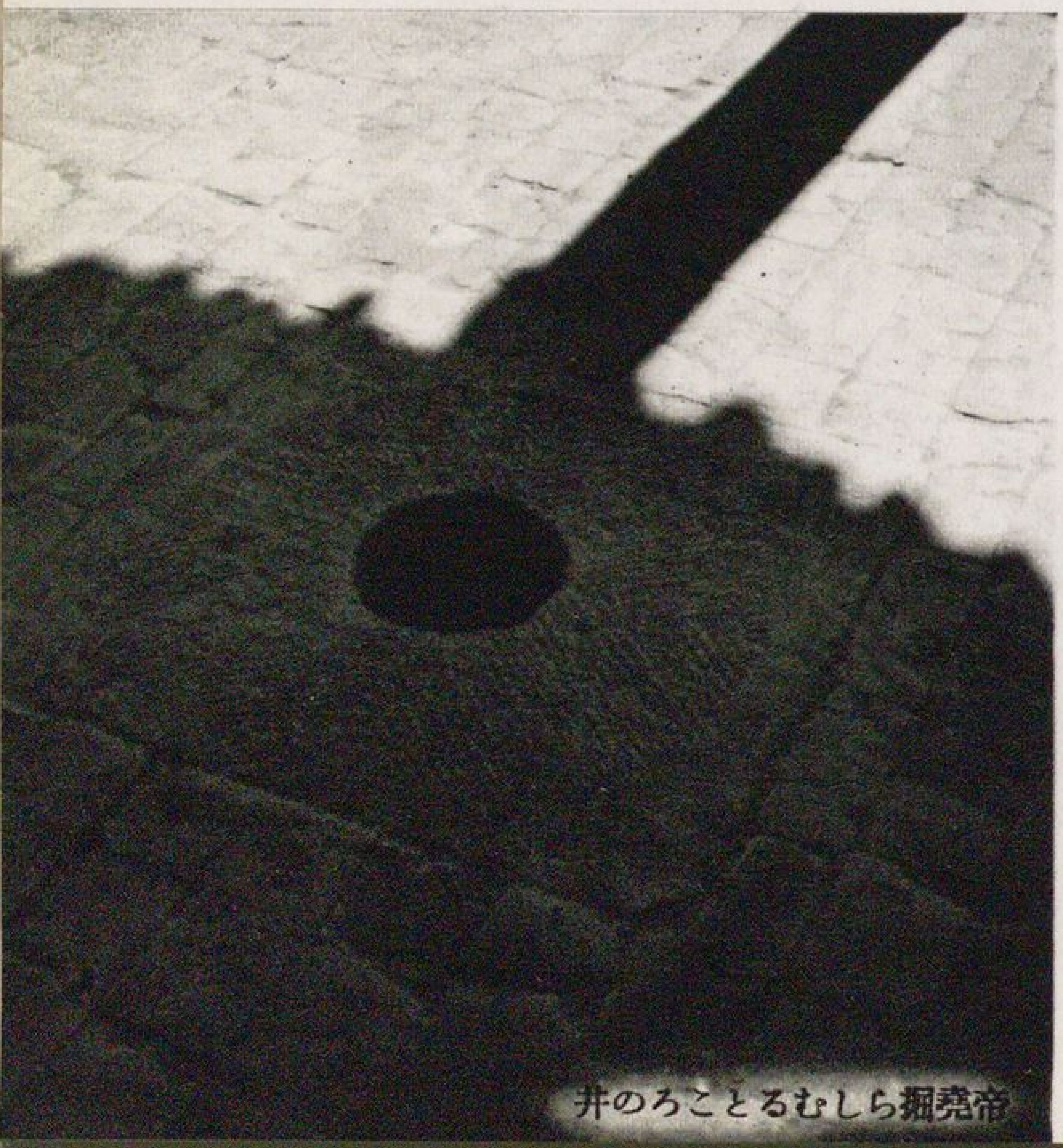
堯、微服して衢に遊ぶ、老人あり哺を含み腹を鼓ち壤を擊つて歌ふ、

日出でゝ作り日入りて息ふ
井を鑿ちて飲み田を耕して食ふ
帝力何ぞ我に有らん

德治と太平との別名になつた鼓腹擊壤の本場はこゝだといふ自慢の碑を拓して、臨汾の人は我等に吳れる。



臨汾の街



帝堯掘らしむるところの井



臨汾の城壁



龍のだしもの





一家揃って

LINFEN-HSIEN, AN ANCIENT CAPITAL OF SHANSI DISTRICT AND RIVIVED FESTIVITIES OF EMPEROR YAO (2)



堯帝と皇妃の像



臨汾（その二）

堯廟祭

堯帝を祀る廟は支那到るところにある。中でも臨汾は總本山とも云ふべきところで上下の尊崇も亦厚い。廟は城の南門外約六粁にあり、堯に續く二聖帝、舜禹を左右兩殿に祀つて結構雄大、春ならば麥畑の中に聳立つてゐる。

昨年二月、皇軍占領の直前、暴虐なる支那軍はこの聖域を潰し樓閣を破壞し去つたゝめ、待望の例祭も中止のやむなきに到つたが皇軍は占領後直ちにこれが復舊に努めた結果、本年は又全山西人感激の中に盛大な祭が行はれたのである。祭期は舊曆三月十五日から一ケ月（新曆五月四日―六月二日）その間廟を繞つて芝居、遊藝、映畫の景物出揃ひ、年に一度の市が立ち、特に日本側では汽車賃の割引、施療、施藥等軍鐵一致の援助を與へたので空前の殷盛を呈した。なかんづく十八日（新曆五月七日）の大祭には山西はもとより、遠く蒙疆、陝西、河南、河北、山東からも參詣者雲集する盛大さでその數約二萬、廟内外を埋め盡した。

當日わが現地軍代表者、山西省各縣長、鐵道愛護村長參列の上、こゝに東亞新秩序建設の宣誓は行はれ民衆擧つて新聖代將來の喜びに包まれたのである。

この一ケ月間の人出約十萬、云ふ迄もなく宣撫工作、鐵道愛護工作上の實績は測り知れぬものがあつた。



北京鐵路局の廉賣所前の雜沓



夫漁の畑

FARMARS TURNED INTO FISHERS BY ANNUAL INUNDATION IN A DISTRICT NEAR TIENTSIN





飛行機は北京を離れるとすぐ海の上に出る。その海の中に村がある、樹の梢がある、電信柱も並んでゐる。そこでやつと旅客は白河の大氾濫の上を飛んでゐることに氣づいて今更の如く支那の大きさに驚くのである。

北京附近でこの洪水禍の最も甚しい所が楊村附近である。天津の工場地帶を北天津站で離れ、北倉站を經て其の次の驛が楊村である。出水がなければ、この邊り茫々として際涯なく、よく耕された黃土の大平原が展開されるのであるが、事變以來の旅客はたゞ見渡す限りの泥海を見たのである。二年を超えた今日もなほ住民は簀子を張つて魚を捕へてゐる。

北支大平原を俯瞰する陝西又は山西の黃土高原に源を發する北支の河流は、河流が平原に入ると其のもち來る泥土を河底に沈澱するので、河底は多く平原より高くなつてをり、河は高く築かれた堤防の中を流れてゐる。そこに北支に屢々起る水害禍の原因があり、古來水を治むる者よく國を治むといはれることの眞實がある。桑田變じて滄海となるとは、支那に於ては我々が如實に見る自然力の恐怖である。北支のうちでもこの楊村の水害禍は、殆ど二三年目毎のことで、昭和十二年の水害は特にひどかつた。かうした環境は楊村の農民に彼等獨特のいたつきの道を考へ出させた。寫眞に見るやうに農民が漁夫となるばかりではない。北京の壁塗り屋と街を呼び歩く床屋の多くが楊村出身の出稼ぎであることも、繰返へさるゝ水害に拘らず生きる爲に彼等の切り拓いた生計の道である。

日本の某政治家が楊村の水害を見て、彼等こそ先づ救濟されねばならぬと痛嘆した。之を聞いた農民は困つたといふ顔をしたさうである。彼等の幸福は放つて置かれることに在る。日本人は考へ直さねばならない。



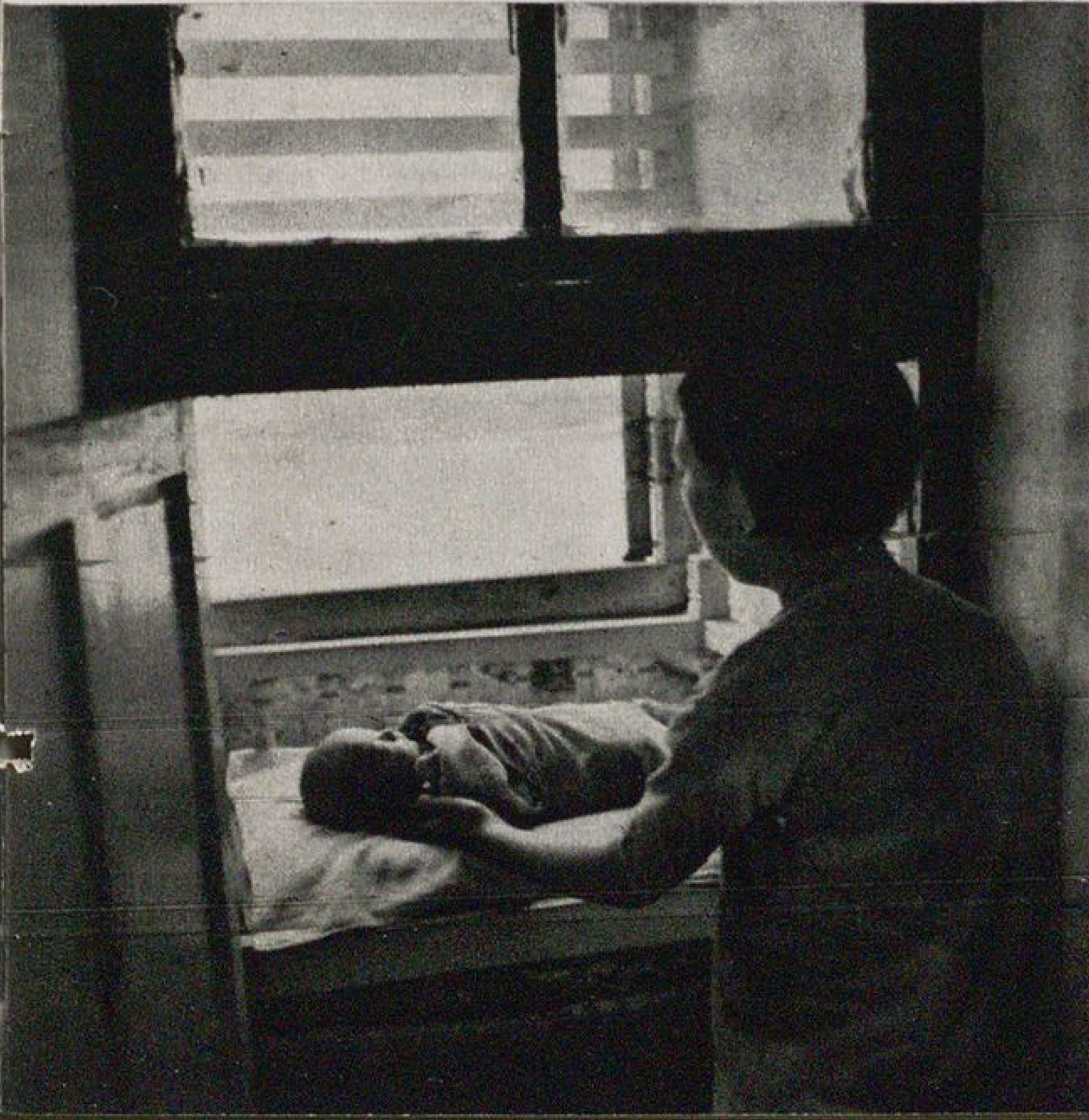






SCENES OF AN ORFANAGE IN PEKING





北海公園の西、養蜂夾道に北京唯一の孤兒院、市立育嬰堂がある。生計の立ちゆかない父親、父なし兒を生んだ母親が「濟生閣」と書いた額の下の扉を靜に開き幼兒を臺の上にのせると激しくベルがなつて捨て兒のあつた事を知らせる。直ぐ內側にゐる乳母が素早く捨て兒を引き出す。先づ身體が洗はれ目方が計られた上、清潔な衣服がきせられる。靜かな部屋での睡眠と充分な日光と新鮮な空氣が萎びた子供たちの血色を甦らせる。乳幼兒には一日三回の授乳、五六歲の幼兒には、魚肝油といゝり卵入りの御飯が規則正しく與へられる。

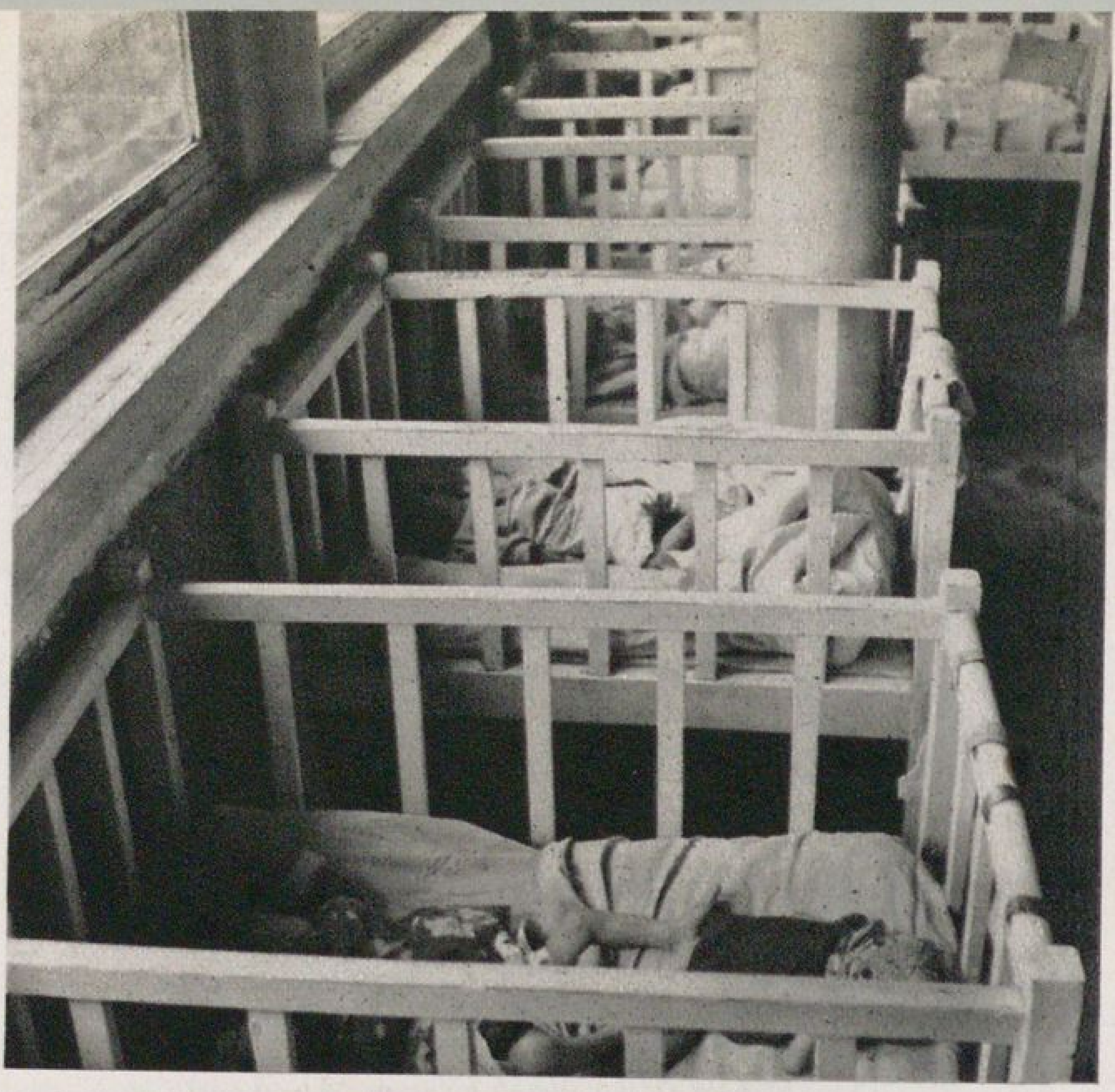
毎週火曜日が參觀日になつてゐて子供の欲しい人々は市內の確實な身許保證人を二人つけて願ひ出る。嚴重な身許調査の上、十圓乃至二十圓の手數料をとつて子供は手離される。

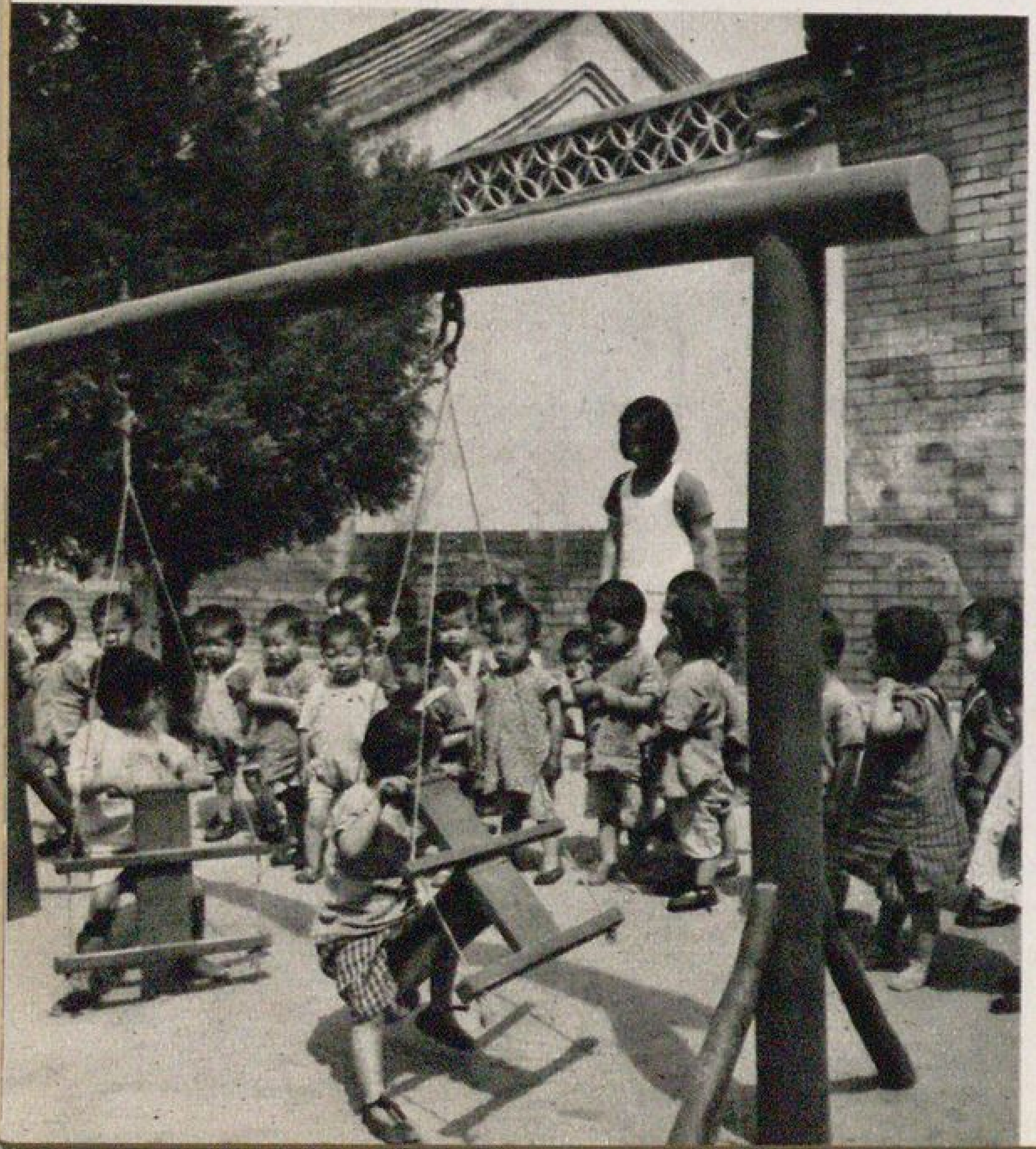
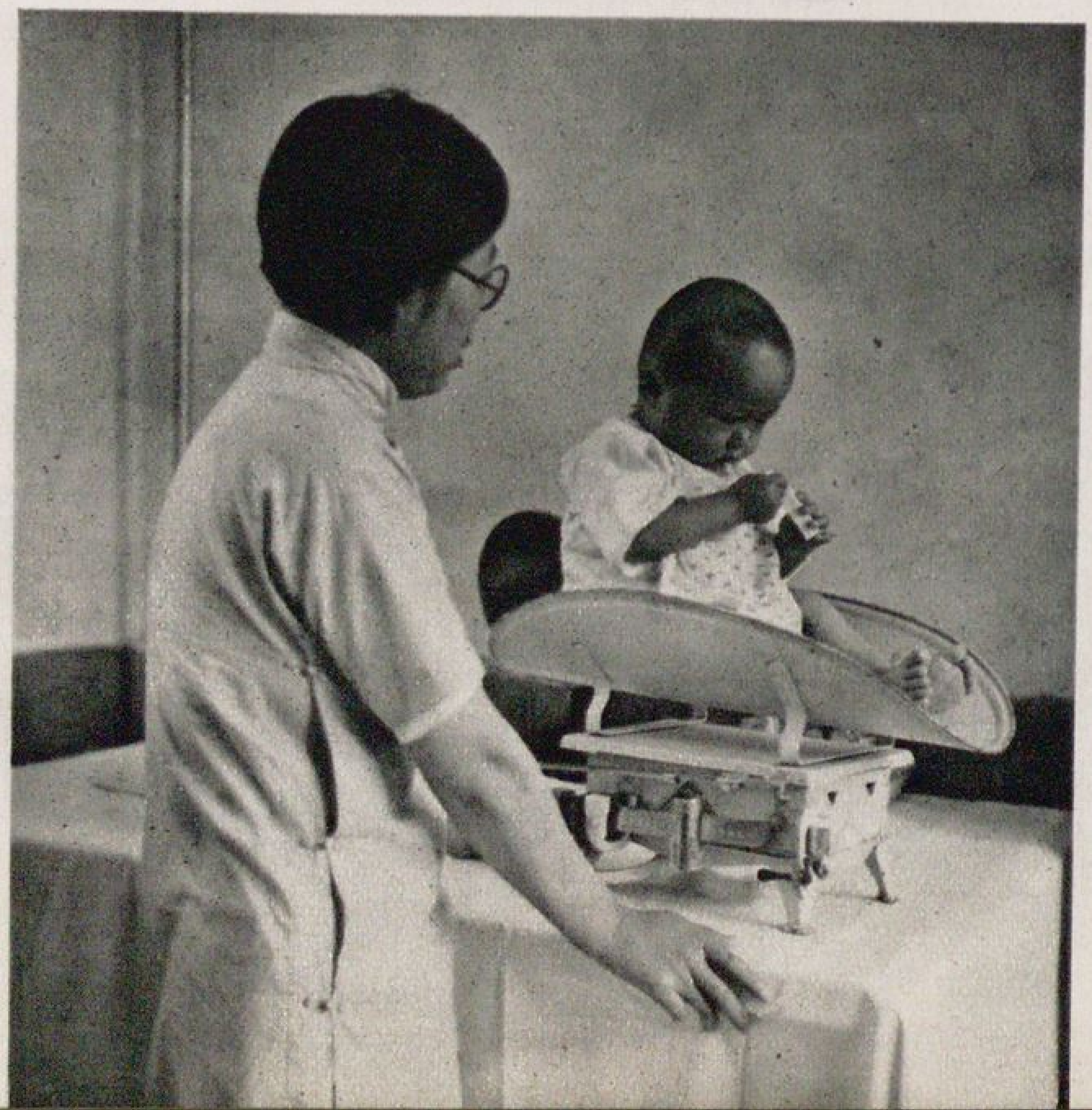
貰はれなかつた子供たちは十三歲迄こゝで育てられ、その後は市の社會局でやつてゐる職業指導所、習藝所に送られ、こゝで木工、印刷工、毛氈工、裁縫工の技術を覺え、やがて一人前の職人として世の中に巢立してゆく。

乳幼兒たちの「母の手」である乳母たちは、ロツクフエラー病院の中にある護士學校（看護婦學校）の卒業生である護士（看護婦と保姆を兼ねた資格をもつたもの）が五人、護士の資格を得るために三年間育嬰堂で實地演習をやつてゐる女學校卒業程度の生徒が十二人、都合十七人の若い女性が百餘人のみなし兒たちの共同の母親として、食物を與へ、衣服を修理し、生活の規律を敎へる他、庶務一般の處理をしてゐる。

年二萬元の經費は北支各界の義捐金によつて賄はれてゐるが、いつも不足勝で、少し大きくなつた子供たちには苦力並みの食物しか與へられないと護士はこぼしてゐた。

有名な奉天の同善堂ほど設備は完備してゐず規模も小さいが、元來、個人主義的傾向が強く社會救濟事業の殆んど皆無な支那には珍らしい施設で將來を注目されてゐる。

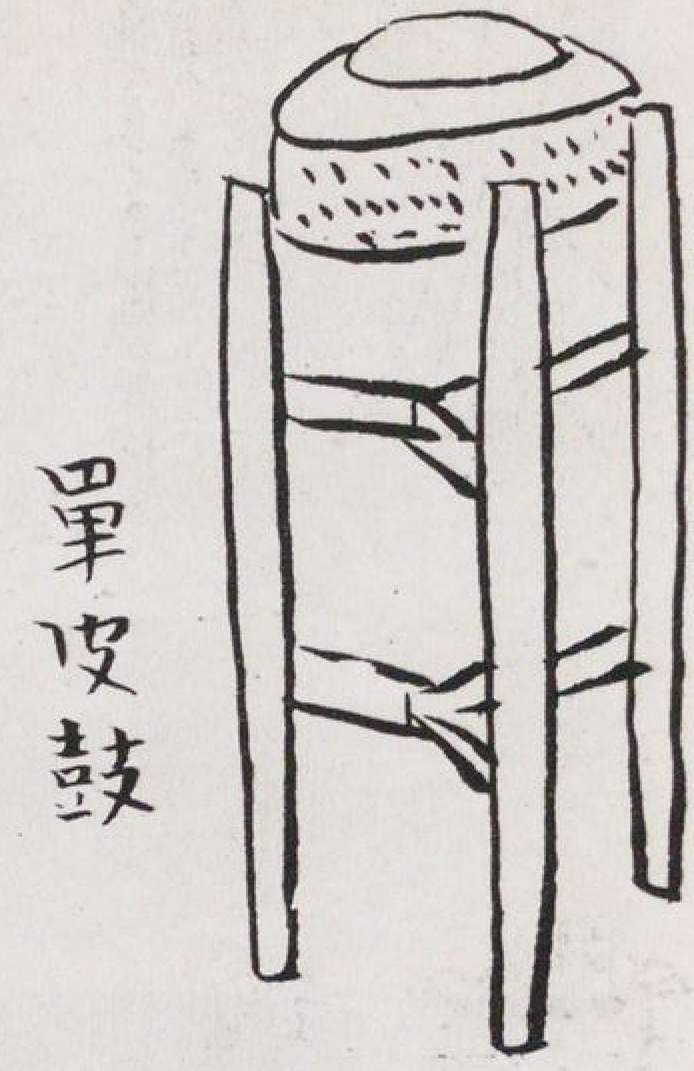




—支那芝居—

樂器のいろいろ

MUSICAL INSTRUMENTS OF THE CHINESE PLAY

ちよつと聞いただけでは騒々しくて耳が痛くなるやうな、あの支那芝居の樂器から、面白さうなのを拾つてみました。支那芝居はもともと一種の歌劇ですから、役者の唱と囃の音樂が大切なものになつてゐます。從つて樂器も日本の芝居より複雜ですが、使用する樂器は芝居の歌曲の種類によつて少し違ひます。即ち此頃一般に支那芝居と云ふのは皮黃調の芝居で、この他に秦腔、崑腔、弋腔の三種があり各々特長があるのですが、長くなるので略します。つまりその各々の調子が大切で、一定の規則を外れたら歌の調が狂つてしまふのです。一つの調には必ず板と眼があつてこの板と眼が調に合はねばものにならぬと云ふわけです。板は一つの調の節目で、眼はその間の調子であります。そんなわけで、この囃の音樂と調子の合はぬ唱ひ方をすれば大根役者と云つて笑はれます。支那の劇場に行つてみると、肝心の役者はぢつとしてゐる時でも、拍手が起ることがありますが、あれは囃方の手腕を讃めてゐるのです。一流役者が特に囃方を揃へてゐるのもなるほどと思はれます。



バチ二本を持つて叩く。役者の唱聲が高くて(4)の板だけでは拍子をとるのに不足な時に使ふ。つまり副拍子でこれを眼と云ふ



皮黃調の芝居で常用する。特に武劇で多く使はれ、大鑼、小鑼と併せて喧ましい。これはもと南蠻からもたらされたものと謂ふ



チャンバラが始まる時に使ふ。すなはち陣太鼓と云ふべきか。文劇では餘り使はない。もと支那の古樂器で他の樂器を補助するもの



(10)の胡琴を補助するもの。四弦で、柄の長さは一尺餘。爪先で彈く



役者登場退場の時や、身振りの時など皆これを使ふ。又音樂の間にヂャンヂャンと叩くのは興を助ける程度。銅製、直徑一尺餘



舞臺横のすみ囃方

板



拍子をとるもので洋樂の指揮棒に當る。圖のやうに二本の木片を紐で通してある

嗩吶



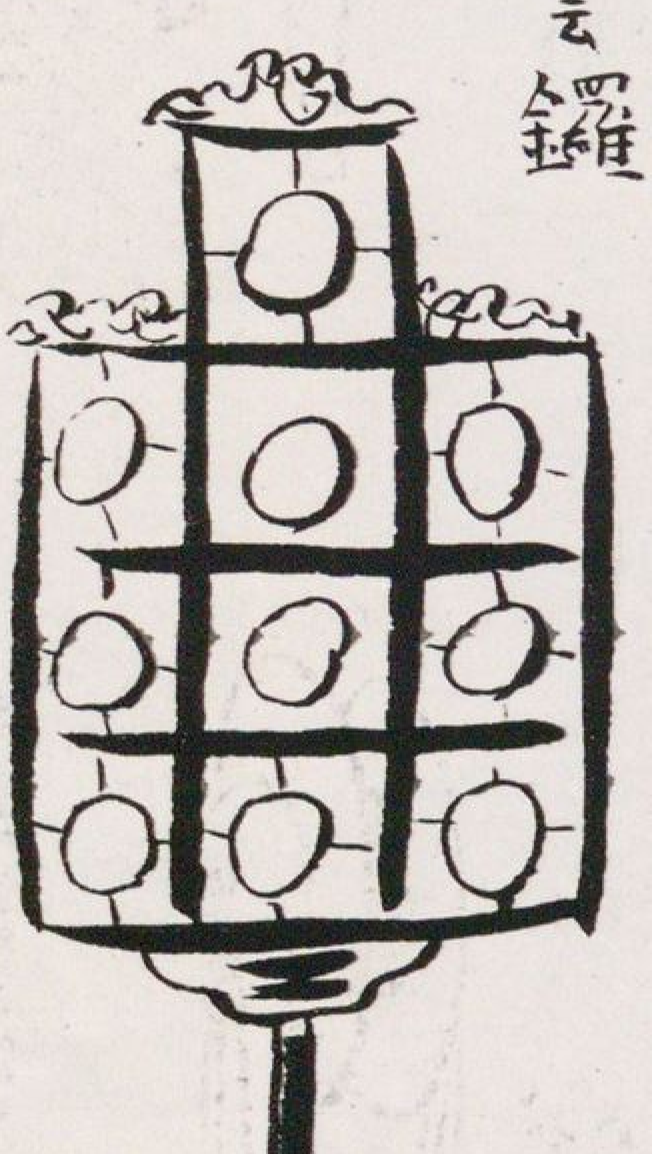
おほかた單獨に使ふ、時々唱と一緒に使ふけれども少い。もと回族が使つてゐたものと謂ふ。長さ一尺四寸餘、眞中は木製

三弦



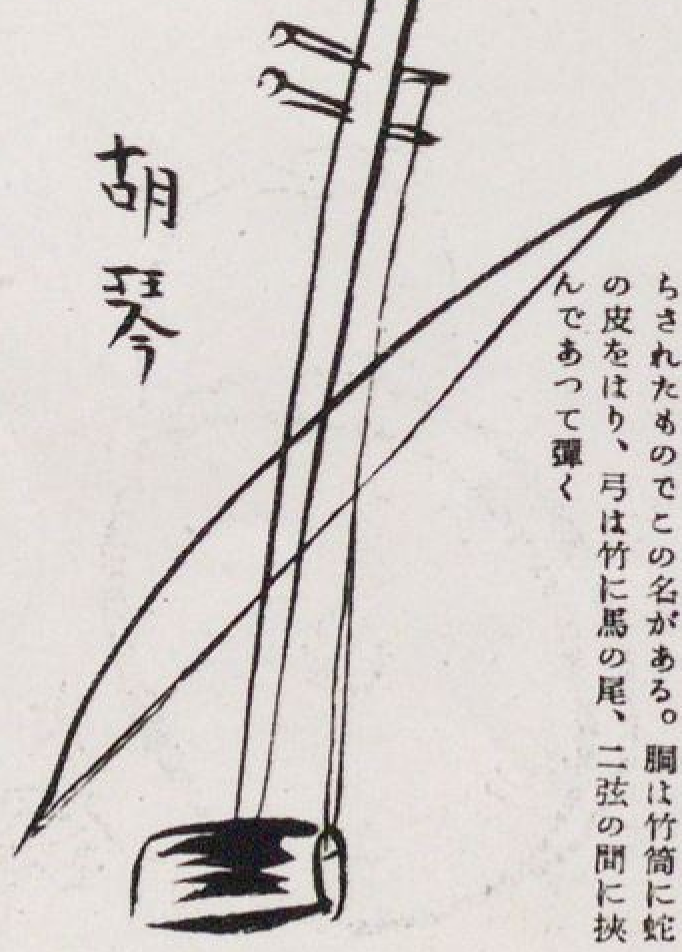
大體日本の三味線と同じもので、ただ撥を使はず、爪彈きする

雲鑼



合奏用のもの。外來の樂器である。左手に下の柄を持ち、右手で小鎚を持つて叩く。十箇の小さな鑼は厚薄で音を分けてゐる

胡琴



皮黃調の芝居の主要樂器。もと北番からもたらされたものでこの名がある。胴は竹筒に蛇の皮をはり、弓は竹に馬の尾、二弦の間に挾んであつて彈く

簫



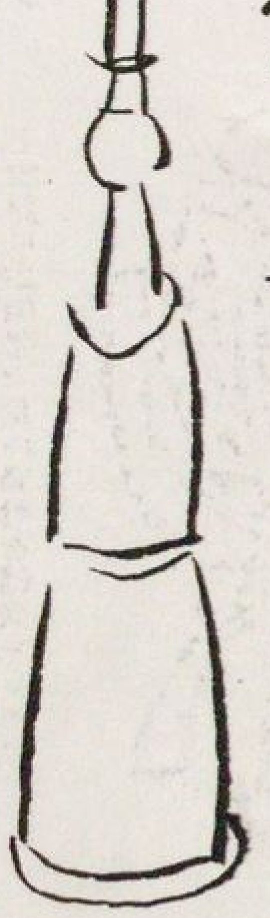
崑曲の芝居で使ふ笛の補助樂器。皮黃の芝居では常用しないが、すつきりした音が出る

笙



これも笛の補助用。胴は瓢簞製、上は竹の管十本餘。下から吹く

號筒



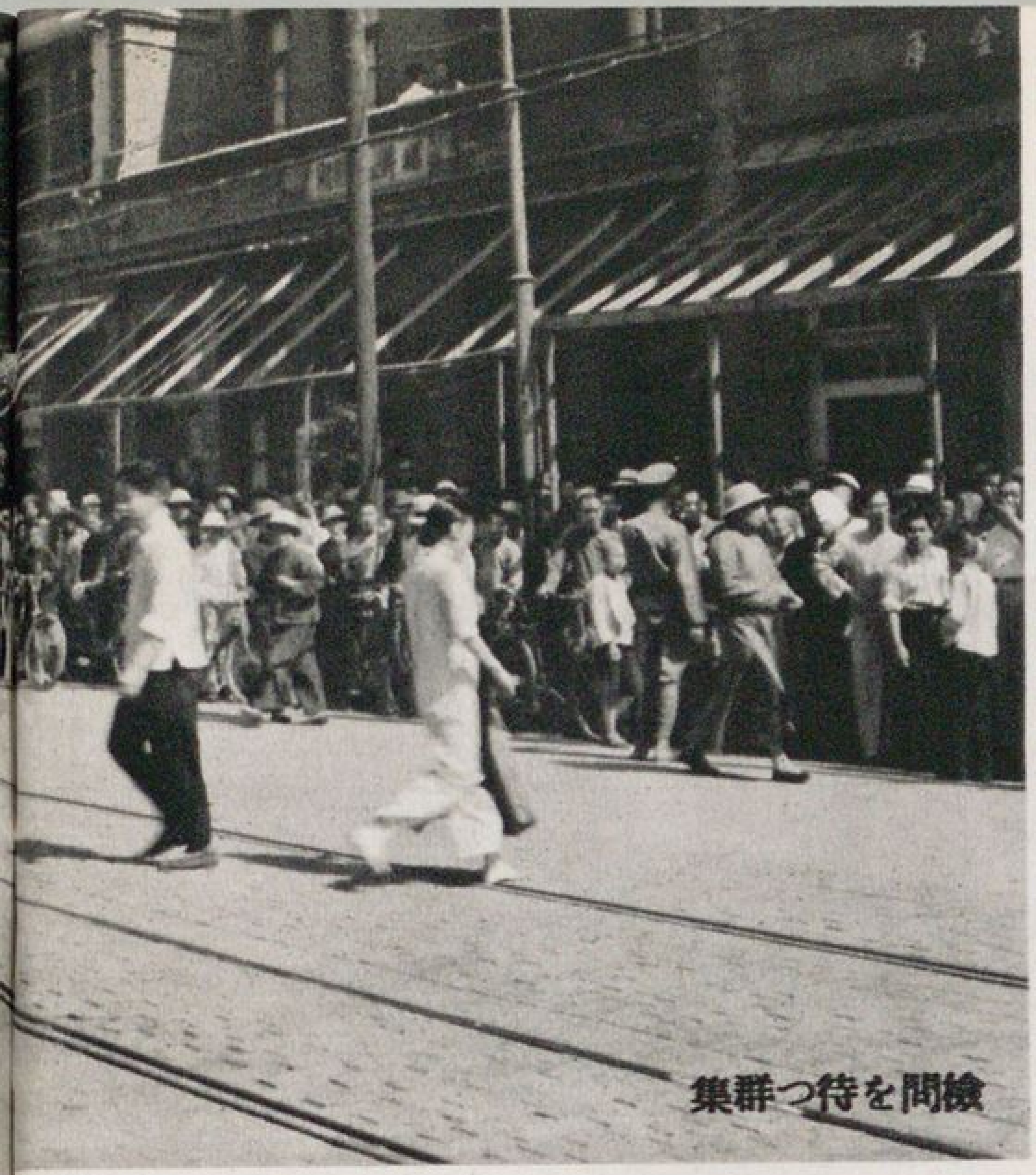
武劇の中で盛に使ふ。もと軍樂器で號令を傳へたものである

NEWS FLASHES

FROM NORTH CHINA

租界封鎖

大きな歴史 小さな歴史 1


検問を待つ群集

天津海關監督程錫庚氏（前天津聯銀支店長）狙撃犯人引渡事件に端を發した天津イギリス租界問題は遂に我が方の膺懲の鐵槌となつて表はれ、六月十四日午前六時を期し、イギリス租界隔絶の火蓋が切られた。東亞の新情勢を認識せず飽くまで頑迷不遜なるイギリス當局は依然として租界を抗日容共分子の温床たらしめんとし、陰謀、策略、テロの横行目に餘るものあり、我が建設線上の一大癌とされてゐたが、たまたま程海關監督狙撃犯人問題に引火し遂に我が當局の堪忍袋の緒は切られ、断乎としてその根源であるイギリスの援蔣政策絶滅の烽火が擧げられたのである。租界隔絶に先だち同十三日大日本軍天津防衞司令官の名において重大聲明、および佈告が發せられ、事件の經過とともに堂々たる我が決意を中外に闡明、同時に英佛租界に通ずる道路六ケ所および白河航行の船舶に對し嚴重なる檢問、檢索を行ふことゝなり、新秩序建設の大目的に向つて鐵桶の陣を敷いた。

日・英租界の境界

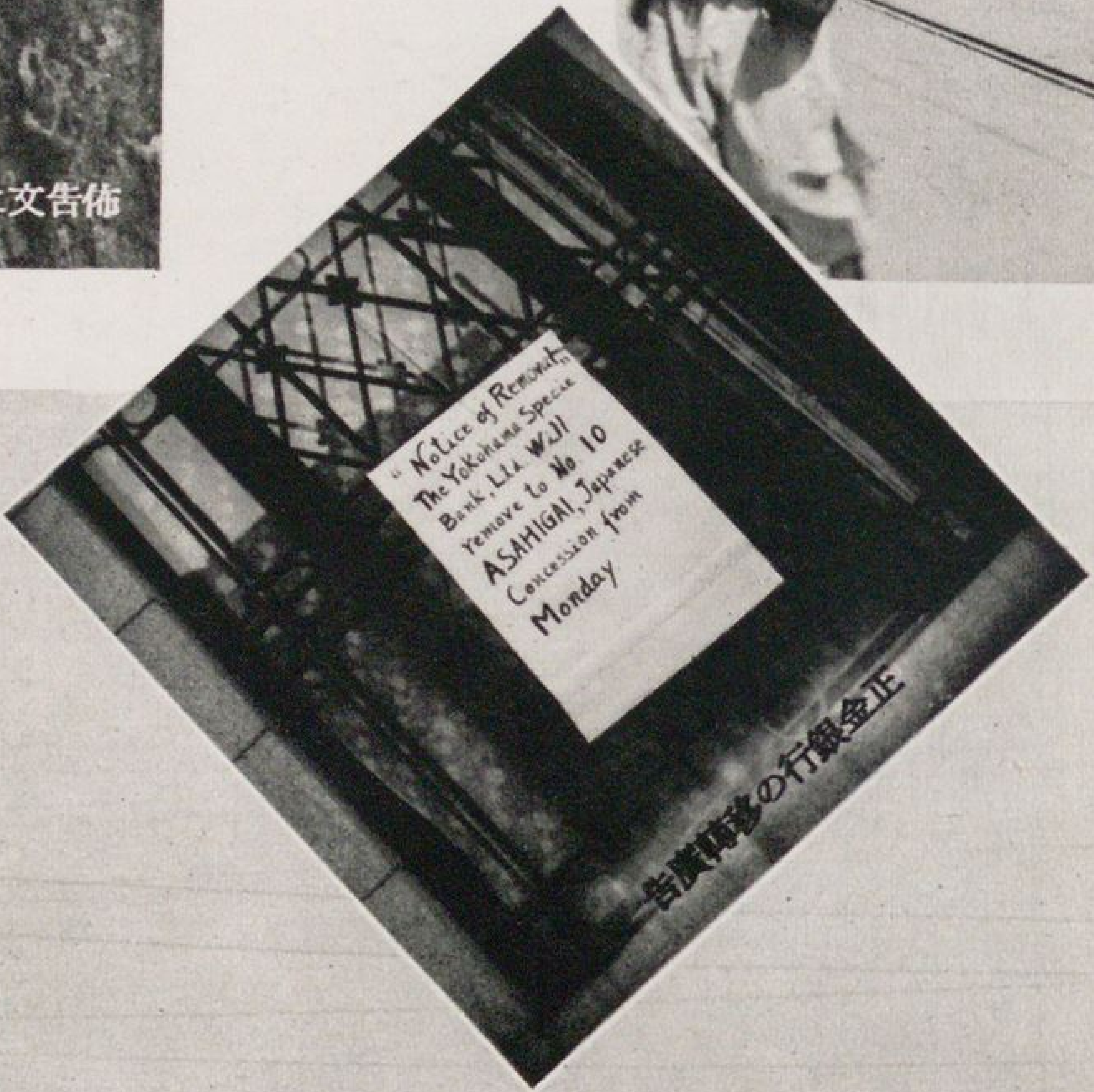



水上の檢索——白河



佈告文に見入る支那人





正金銀行の移轉廣告



反英大會

大きな歴史・小さな歴史 2



反英大會々場



抗英歌の合唱

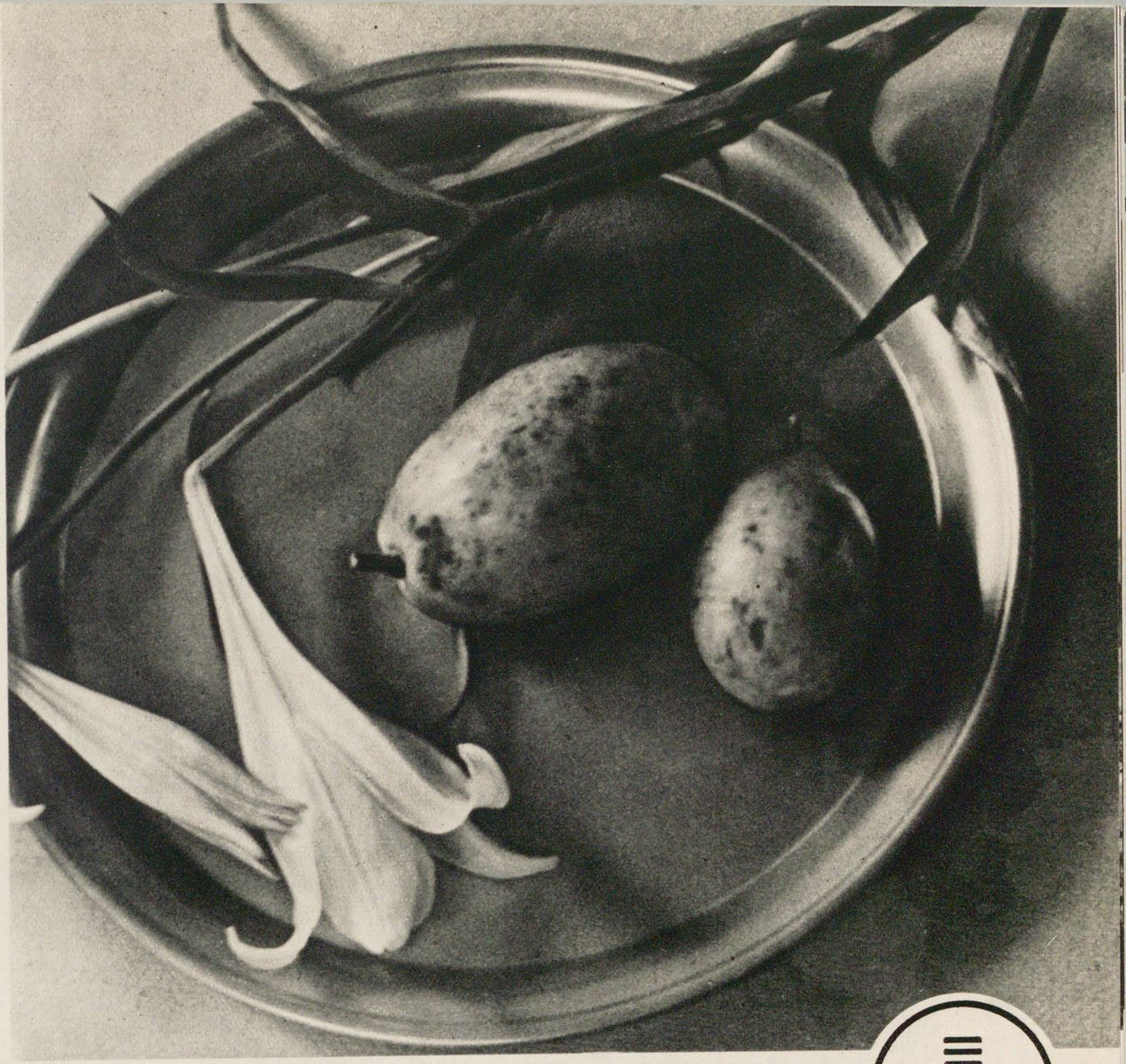
天津英租界問題に端を發して、中國民衆の間には〃反英〃の氣運漸く瀰蔓し、阿片戰爭以來隱忍して來た鬱憤は一度に爆發して遂に打倒英帝國主義の焰となつて燃え熾り、六月二十三日にはお膝元の天津をはじめ北京、太原、濟南、青島等の各地に反英大會が催された。この日、北京では和平救國委員會および民衆各界代表共同主催のもとに午前十一時から舊宮殿大和殿前で開催され、堂々たる宣言を發して打倒英國を絶叫、市中に示威行進を行つた。

北支蒙疆主要都市平均最高氣温

STATISTICAL TABLE OF THE TEMPEATURE IN NORTH CHINA



支那では昔から天を重んじたので天體の運行や暦に關する學問は非常に進んでゐた。明末には西洋の天文暦も輸入されて一段の飛躍をみたのである。現在北京内城の泡子河にある觀象臺即ち天文臺は元、明の故址に依つたもの。臺上に陳列されてゐる各種の儀機は西學輸入以後の製作で、康熙初年に白耳義人フェルウェスト（南懷仁）に命じて作らせたものである。（但し寫眞の機衡撫辰儀は乾隆初年の作）その他臺下に明末製作の儀機があつたが、民國二十二年五月南方に撤出されてしまつた。又北清事變の際には獨佛兩軍に占領され臺上儀機の大半を持去られたが、佛國は直ちに返還、獨逸は大戰後民國十年漸く返還したと云ふ。曰く附の觀象臺である。北京見物に餘裕あれば一見の價値はあらう。



北支蒙疆の交通に就て

宇佐美寛爾

支那事變は大陸の相貌を一變せしめた。今や皇軍の戰果の上に東亞新秩序の建設は進められ政治、經濟、産業、文化、何れも新生の歩を踏み出した。

道はローマに通ずと西洋では謂はれた。支那では長安に通ずと言つた。交通は建設のアルフアでありオメガである。交通の整備は大陸建設の礎石であり開發の動脈である。ところが其現狀は遺憾ながらなつてゐない。本來十分でなかつた上に、事變に依る被害損傷が大きいのである。至急に整備充實されねばならない。その必要に應じて創立されたのが華北交通會社である。

華北交通會社は華北に於ける鐵道、自動車、水運、並に夫等の附帶事業を營む外、蒙疆政府の委託に依て蒙疆の鐵道を運營する。其設立は中華民國の特別法に據る中國法人であり、資本金は北支那開發會社の一億五千萬圓、滿鐵の一億二千萬圓、中華民國臨時政府の三千萬圓、合計三億圓である。斯く言へば氣の早い人はすぐに例の合辦と考へてしまふかも知れないが、之は在來の合辦觀念では律すべからざる新形態、新秩序に對する日支の協力を茲に具體化したものだと我々は考へて居る

鐵道に就て云へば、京山線を除く鐵道の大部分が戰火に見舞はれて居る。夫等の鐵道―津浦、京漢、京包、同蒲膠濟、正太、隴海―の復舊工事を初として、北京と古北口を結ぶ京古線の建設、黃河大鐵橋の修復による津浦線の全通、同蒲線北部における標準軌間への改軌、京漢線と隴海線とを聯絡する新鄉――開封間（新開線）の新設などが今日迄に遂行された。がこれ總て軍鐵道隊と鐵道從事員の血と汗の結晶に他ならない。

北支蒙疆の鐵道總キロは約七千キロそのうち現在既に四千四百キロの營業を行ひ、約六十三パーセントを運轉してゐる。昨年十月一日から開始された鮮滿支直通列車、本年四月一日から運轉された津浦線直通列車など、その伸張復舊は實に目覺しいものがある。しかし治安の回復に伴ふ貨客の激增によつて今日なほ輸送の萬全を保し難い狀況であり、今後の整備充實が急務である。と云ふのは、全支那の鐵道延長はおよそ一萬三千キロ、その約半分が北支、蒙疆に集中してゐるが、しかし面積百平方キロに對する北支、蒙疆鐵道の割合は僅かに半キロに充たず、カナダ、オーストラリヤはもとよりブラジルにも及ばない貧弱さである。古來、中國は南船北馬といふ如く北方における交通は主として陸運であり、河北省の如きは北方文化交通の中心で鐵道も支那第一の延長を有つてゐるにかゝはらず面積百平方キロに對する割合は僅僅一キロ半であり、辛うじて英領インドの程度に過ぎない。これでは到底北支、蒙疆の豐富な物資と住民とを滿足に輸送し得ない。現に大同の石炭をはじめ山西省の石炭の如きは交通不便のため經濟的價値を十分に發揮することが出來ない有樣で、これら能力の不足はひたすら日本人の手による開發を待つてゐる狀態である。

鐵道に次いで陸上交通に重要なのは自動車である。自動車は近年著しく發達して交通界の重位を占め、單に旅客の爲としてばかりでなく、軍事上、治安上、はたまた經濟、産業、文化の開發上極めて重い役割をつとめるに至つ

内容

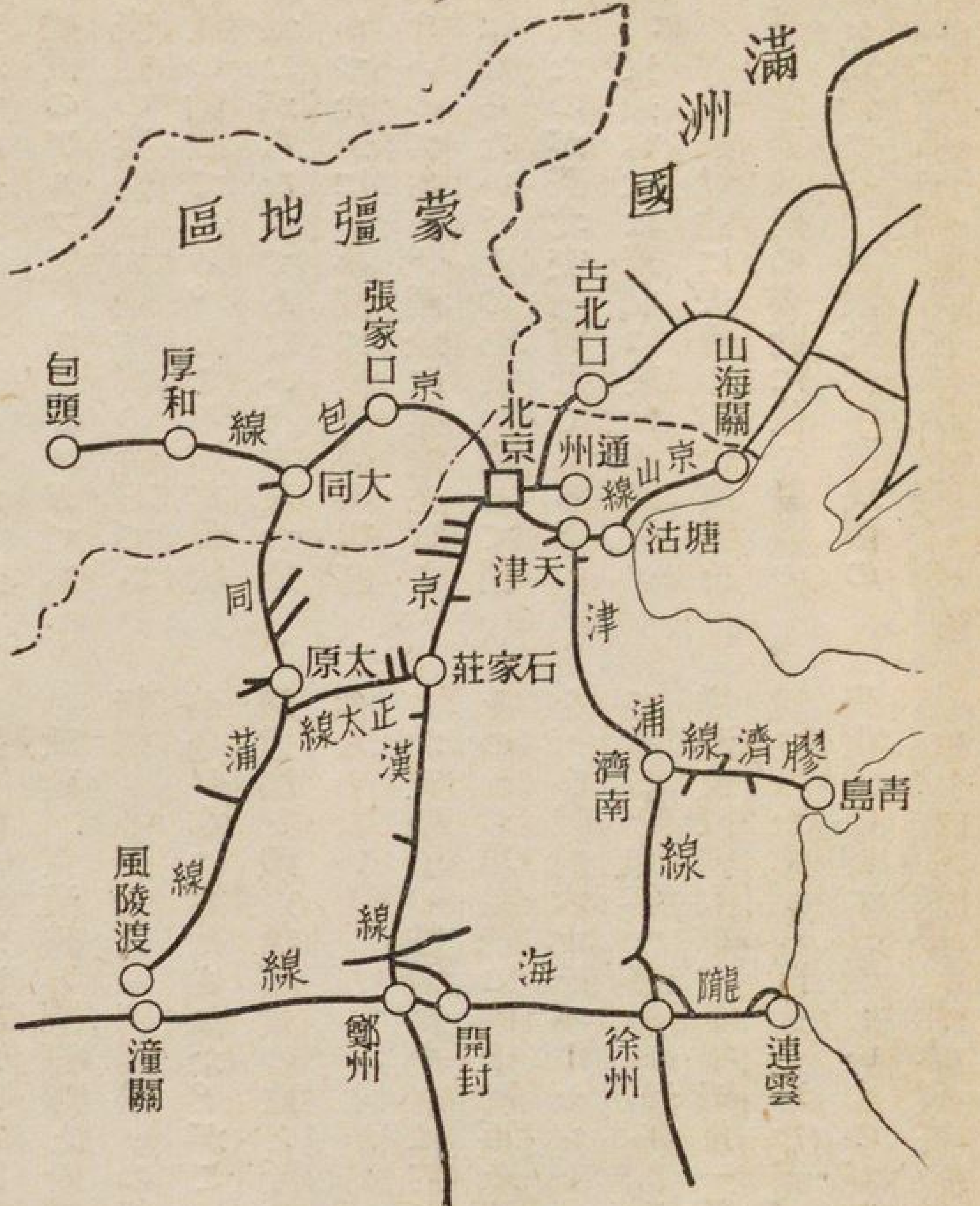
た。歐米諸國においては自動車が鐵道の領域にまで進出して、その貨客を奪ひ取り、兩者の間に種々の問題を生じてゐるが、曩に滿洲國においては國有路線における自動車交通事業を國有鐵道經營機關である滿鐵鐵道總局に委託して一元的經營の範を示した。華北交通においても七千キロの鐵道に加へて現在北支において五千五百キロにのぼる自動車線を運營、鐵道とともに綜合經營の實を擧げようとしてゐる。また蒙疆は、蒙疆汽車公司（汽車は支那では自動車のこと）のもとに現在約三千四百キロの自動車線を經營、これの伸張發達に向つて努力しつゝある。

更に北支、蒙疆の水運は天津、塘沽青島、秦皇島、芝罘、龍口、威海衛、連雲港の各港灣をはじめ各河川運輸があるが、これら港灣設備も不十分であり、河川運輸も不備不統制で、將來北支、蒙疆の發展を期するためには、これら水運の機能を十分に發はす必要に迫られてゐる。華北交通は北支における水運事業とこれに附帶する諸事業經營の委託を受け、水運部從事員一同、着々とその活躍體制を整へつゝあつたが、天津英租界問題を契機に白河航行船舶の急速解決を必要とするところから、六月二十六日を期して、天津碼頭（特別三區）、塘沽碼頭、塘沽北砲臺の碼頭の一部の埠頭營業を開始、こゝに北華交通の水運事業は、國策的使命の上に陸運、水運の有機的運營の緒につきこれまた將來の躍進が頗る期待されてゐる。

以上において北支、蒙疆の交通の現況と、それの運營に當る華北交通の諸事業並びに蒙疆の交通機關について概說したが、前述の通りこれら運輸機關はかゝつて今後の發展ある。この重責を擔ふ華北交通の從事員は滿鐵、鐵道省その他から入社した日本人二萬、滿鐵から轉出した滿洲國人と舊支那鐵道從事員の六萬、合計八萬名を數へ、作戰の直背にあつて建設戰に協力しつゝある。事變以來鐵路の礎となつて斃れた殉職者は既に約四百名を突破した。今日と雖も銃砲の音を聞きつゝ執務する場合もあり、兵匪を警戒しつゝ列車を運行する場合もあり、往々寢食にさへ事缺きつゝ僻遠邊陬の地にあつて、晝夜を分たぬ勤務に服してゐる。この時、この所に於て國策に挺身する我等の使命亦眞に重且大なるものあるを痛感する次第である。

顧れば嘗て歐洲列國は支那大陸にその勢力を伸張するに當り、先づ利權を鐵道の建設に求め、以て市場、資源、乃至は領土獲得の手段とした。鐵道の改良、建設を名とする借欵が貪婪なる軍閥や政客によつて締結濫用され、ために鐵道の紊亂はもとより、延いては中國自體の癌とさへなつた。率直に表現すれば中國には眞の意味における社會の公器としての鐵道、民衆のための鐵道は存在せず、それは恰も侵略搾取の唯一かつ最大の手段とさへ疑はれて來た感があつた。しかしこれは既に過去における事實に過ぎない。華北交通は支那鐵道のかゝる不明朗性、無軌道性を一掃清算することもその任務の一つとして誕生した。現在中國が背負つてゐる莫大な鐵道借欵は中國政府として清算すべきものであるが、之が償還の爲にも鐵道は利益を擧げる必要に迫られてゐる。換言すれば華北交通は、損失を自己の負擔において運營する上に、借欵整理に資すため政府に對し相當額の上納金納附義務を負つてゐる。今日の狀況から推して華北交通の經營は前途必ずしも樂觀を許さぬ。

しかしながら黃河以北の地は支那歷史發祥の地として人文夙に開け、人口稠密、天產豐富、いはゆる地大物博、運營の宜しきを得るならばその將來期して俟つべきものありと我々は確信するのである。



北支蒙疆鉄道略圖



北支蒙疆

資源の話

小島德三

金は金屬の王といはれ、昔からあらゆる民族の羨望の的になつてゐます。特に前世紀の後半、主なる諸國が金を正貨と定めて以來、金の經濟的意義は一層加はり、金の産出やその移動は一國の國運の消長にも影響する樣になりました。現在我國では産金奬勵とか金の獻納等が盛んに行はれてゐるのは以上の理由によるものです。

北支の長城線一帶は古くから世界有數の金産地として知られてゐて昌平の北方、分水嶺金鑛は事變前張學良の金庫とまで稱せられてゐた豐富な埋藏量を有するものです。然し現在迄の北支の採金事業は一、二の金鑛地區を除いては他の産業資源に比してまことに寥々たるものです。之は支那人が一般に鑛業知識に乏しいと云ふより、歷代朝廷が地方勢力を暴壓する政策として鑛業を禁止したことと、北支の北部を占むる蒙古人が宗教的に土地の開拓を欲しなかつたためです。

河北省の金鑛地としては昌平、密雲遵化縣等を擧げることが出來、其他長城線地域に幾多の新金鑛區が發見されつゝあります。

山東省の金については前米國大統領フーバー氏が産金事業を計畫したことによつても有名ですが、最近東部地域に一大金山が發見され我國の資本による開發が計畫されてゐます。

北支、蒙疆の金については未だ充分な調査が行はれてゐず、依然として舊態を脫してゐないのであるから、事變終結後における産金事業の將來は期して待つべきものがあります。

◇

日本に於ては「石油の節約」が盛んに宣傳せられ、石油資源の獲得に努めつゝあるが、日本における石油産出量は微々たるもので、石油使用量の大部分は外國よりの輸入を仰がねばならない現狀にあります。

支那に於て石油の最初に發見されたのは今の山西省の南西部地方で今から二千餘年前——漢の時代であります。その頃は石油の用法も諸外國の古代民族と同樣原油を醫藥の一種、特に皮膚の治療用としたに過ぎません。

現在開發されてゐるものは陝西省の延長油田だけで、その開發は一九〇一年に試みられ今日に於ては、支那における最も重要なる石油地であり、將來この油田だけでも支那自身の需要を充たすことが出來ます。

尙、滲油並に石油地として地質的徵候を發見された主なる地域として迪化盆地、塔里木盆地及び北部陝西盆地をあげることが出來ます。また石油鑛床と必ず密接な關係を有する油頁岩の分布は極めて廣く、特に山西省には豐富な埋藏量があると稱されてゐます。

なほ支那の石油資源に外國人が初めて關與したのは一八八二年で、獨逸の某商社によつて陝西延長油田の開採が企圖されたのですが、實際の採油に至らずに中止しました。また一方一九一三年乃至一九一五年、フーラー及びクラップ兩氏は山西、陝西、甘肅、湖南の鑛業調査を行ひ之を世界に紹介しました。其後スタンダード石油會社のルーダーバック氏は四川の石油資源を調査し、又一九二二—二三年に亙つてアメリカ自然科學博物館員の一行が蒙古を踏査し、この方面が石油に富むことを報告しましたが、これについては未だ公表されてゐないので詳細は判りませんが、以上の石油資源も何れ日本の手によつて、どんどん開發されて行くことでせう。

◇

以上述べました鐵、石炭、羊毛、棉花、鹽、金、石油等によつて物的資源に關しては一通り說明致しましたから最後に勞働資源たる苦力について述べて見ませう。

支那の波止場や停車場で旅行者に一番目につき易いのは眞黑に日焦けしたボロ〳〵の支那服をまとひ、孜々として働いてゐる苦力の群でせう。

私達はこんな汚ならしい苦力がどうして蟻のやうにうよ〳〵してゐるのかと疑問を持ち、一應は冷たい目を向けるのですが、之等苦力達は支那の經濟機構の中に一つの大きな地位を持つてゐるのです。例へば六月から日本軍の手によつて援蔣抗日を續ける天津英佛租界の隔絕が行はれてゐるのですが、この隔絕によつて英佛當局が最も困つたのは食料難といふより苦力の不足でした。工場の操業を續行することも出來ず、租界碼頭の荷物搬出も不可能の狀態に陷り、貨物の運搬を在留外人達で行ふことも出來なかつたのです。以上のことは卑近な一例に過ぎません。

北支から滿洲に出稼にゆく山東・河

北省の苦力だけでも一ケ年五十萬人に達し、北支に持ち歸る金額だけでも、驚く勿れ二千萬圓を超えると云はれてゐます。これらの勞働者達が滿洲の工場や其の他の建設工事に從事してゐるのです。現在滿洲國では産業開發五ケ年計畫に必要な、滿洲國が最も困難とする勞働力の不足を補ふため九十萬の苦力を北支に募集してゐますが、これによつてみても北支の苦力が如何に經濟、産業開發に大きな役割を有するものであり、單なる勞働者たる以上の重要性があるかを認識することが出來ます。

　また支那の苦力が世界的に有名になつたのは歐洲大戰の頃からでせう。支那も列國に伍して聯合軍に參加したのであるが支那の爲すべき役割として軍事的には何物もなく、苦力を歐洲に送つて列國を助けたのです。然しこの苦力軍は列國に大きな援助を與へ絶讃を博したまではよかつたのですがロシアに派遣された苦力達は共産主義の洗禮を受け凱旋後、共産黨に加入し、或る者は土匪の群に投じて仕舞ひ、掠奪暴行を行ひました。當時外人人質事件が頻々と行はれたのもみなこれ等苦力達の仕業でした。歐洲大戰に於ける支那軍勇士の末路が以上の樣になつたのも支那でなくては見られない珍悲劇ではありませんか。

　苦力の主なる産地は山東、河北であつて特に山東苦力の名は普く世に知られてゐます。河北省や山東省は支那で最も古くから開けた所で見渡す限り開墾せられ、林野も草地も殆んど見られない位になつてゐます。また人口密度は全支那の平均一平方粁四十人に比して、河北省は六倍强、二百四十六人、山東省は五倍半の二百二十一人に達してゐるのです。現在人口問題解決を云云されてゐる我國の人口密度百七十三人に比して之を遙かに凌駕してゐる情況であります。だから生活が困難な上に勞力が餘つてるのです。勞働しようにも耕やす土地がなく、結局勞働を他に供給することによつて生活費の不足を補ふことになります。

　之等の出稼人達は唯一の財産であるボロ〳〵の蒲團を肩に掛け、ぞろ〳〵一團になつて天津や芝罘に集まつて來ますが、苦力出盛の頃は津浦線だけでも一日平均三千人を超えます。

　苦力達の生活は甚だ簡單で、從つて賃銀も極めて安いのです。食費は月に三圓位で、被服費を加へ四圓位だから月五六圓位の收入があれば立つて行きます。普通都會地での賃銀は三十錢から五十錢、滿洲の奧地や山西省の邊鄙な炭坑地でも一圓から一圓五十錢の相場なのです。前述した如く英租界の隔絶等の突發事件があると苦力賃銀も二圓と云ふ暴騰を招來することもありますが之等はほんの例外に過ぎません。

　天津の碼頭には、十數箇所の勞働市場があります。此處へ夏の午前六時前後に行つて見ますと、黑山のやうに職にありつかんとする苦力達が集まつてゐます。そこへ勞働者雇入れの男が來たと見るや、砂糖に蟻がつく樣に吾先に押しかけて行きます。一寸の間にそこら中は身動きも出來ない樣になつてしまふのです。

　碼頭の苦力は「撩件子」と呼ばれ或地點から他の地點まで貨物を運搬した場合、一件につき幾何といふ工合にして勞銀を貰ひます。

　天津地方では一回運ぶ毎に竹籤一個を渡し、仕事が終つた後で竹籤を數へて賃銀を渡します。苦力は極めて暢氣なもので、その日の仕事にあぶれると河のふちや倉庫の軒端にゴロ〳〵と晝寢をしてゐる。彼等の生活は勿論低級で不安定であり、食事は極めて簡單であり、住宅も日本の四疊半位の部屋に五、六人も寢るので一日四、五錢位で濟むのです。そして彼等は國に歸つて妻帶することを唯一の樂しみとし、それを夢に描きながら一日二、三錢の零細な金を殘していくのです。

　苦力には苦力幇と稱する一種の支那式の勞働組合があります。これは二百名內外の苦力が一團をなしてゐるもので、その上に苦力頭とか把頭と稱するものがあり、配下の苦力から賃銀の上前をはねるのです。之等の苦力頭は作業の指導鞭撻は勿論苦力の私生活の一切の世話もやるのです。苦力が病氣をすれば醫療費からその生活費まで供給し、雨で休めば食費を與へてくれるのです。又この苦力幇には繩張があり、その範圍內で仕事をやらねばその苦力幇の面子が保てぬわけです。

　現在中支方面の交通勞働者の中に青幇、紅幇等の祕密結社が相當に巾を利かし揚子江の舟運には侮り難い勢力を有つてゐます。青幇と云ふのは、もともと清朝時代南方から運河をつたつて北京まで米を運んだ清朝御用の苦力の一團であつて、清朝沒落後は職にあぶれ揚子江附近にその根を張つたものです。

　事變以來戰禍と水害に困憊せる民衆は急激に殖えたのですが、滿洲、北支蒙疆の開發計畫が進むにつれて彼等も職にありついてゐます。

北支の農村 二

みづの・かほる

二、集團する農家

北支へ來て、汽車の窓から果し無く續く平野と、極めて間遠に點在する部落とを眺めては、誰もが一樣に、北支の耕地は廣い、定めし北支の農家は廣大な畑を所有し、耕してゐるのだらうと考へられるであらう。筆者も亦常にかうした質問を、北支に旅する人々から受ける。ところが、その實北支の農家は、日本のそれと大差無く、平均一戸當り一町歩そこ〳〵にしか當らないことは、すでに前回にも述べた通りである。ではさうした見誤りは、どこから起るのであらうか。

それは何んの不思議もない。北支の農家は日本の農村のやうに、十戸こちらに五戸と、耕地の間に分散してゐないで、集團してゐるからである。それに、一望千里視界を遮ぎる山も無く、平野の耕地には樹木も少い。一見さうした見渡す限りの畑であるので、一見さうした誤りを起すのも亦無理からぬことである。

そこで、北支の農家は何故に集團生活を營むかと云ふことになるが、これには、先づ第一に擧げられることは、農家が外敵に對する共同防衞である。

北支は昔から兵匪の災害はつきもので、農民は隨分と惱されて來た。兵匪一過、辛苦一年の貯へは、あらしの如くさらはれてしまふ。品物どころか、最愛の妻子までかすめられる。命が殘ればまあいゝ方である。支那の役人はたゞ税金をとるものときまつたもの、部落の警備などかまつてはくれない。役人御自身が怖いのである。これがためにはどうしても集團的に居住して、一朝事あらば部落民は總立ちとなつてこれに對抗しなくてはならない。

集團は地方によつて大小はあるが、平野地方だと先づ百戸から二百戸（一戸當平均五人）位が普通で、それ以上のものになると、純農村即ち農家ばかりの集團ではなくて、商家が加はつて田舍町を形成するものが多い。前者を一般に村、莊、或は鄕と名付け、後者を鎭と呼んでゐる。

百戸乃至二百戸と言へば、住民の數から言つても、相當の防衞力をもつことになる。防衞の點から言へば、集團の大きいほど强力にはなるが、純農村として二百戸以上も集團すると、一つの不便が起つて來る。百戸乃至二百戸位だと、その周圍にもつ耕地も、遠くて日本里數の一里位のものであるが、戸數がそれ以上大きな集團になると、耕地は益々部落から遠くなつて、耕作の往き歸りに大變である。さう云ふことから、自ら純農村の集團には、勢ひ限度があることになるわけである。

山地帶に行くと、平野と違つて耕地がまとまつてゐない關係から、農家の集團が平野のものより小さいのも、亦自然止むを得ないことであり、又大都會近傍の農村が、比較的その集團が小さいと云ふのも、一に治安の良いために防禦の必要が少いからである。

部落は共同防衞のために、なるべく住居を近接さして一團となり、匪害の多い地方になると、部落の周圍に共同の土壁か、或は煉瓦壁を造つたり、又木柵や溝を繞らしてゐるものもある。墻壁には、隣村に通ずる道路が部落を貫く場所に門を設けて、夜間は之を閉鎖し、部落の周圍の防禦と共に匪賊の襲來、鼠賊の來往に備へてゐる。そこ

て奥地を旅して、部落の圍ひの嚴重な地方ほど、治安が惡い地方だと、先づ常識的な判斷もつくわけである。

山地帶は、前述のやうに集團が小さく、匪賊の巣窟としても便利な點から匪害が平野地帶のそれよりも激しい。そこで、山東の中部山地帶の部落の如きは、裏山の頂上に、煉瓦や石造りの山寨を築いて、もし匪賊の襲來でもあるといふ情報がはいると、めぼしい道具や家畜をつれて、部落民がこの山寨に避難する。山寨は相當大がゝりなもので、墻壁の內には雨露をしのぐに足る家をかまへ、井戸さへ掘つてゐるものもある。匪賊がこゝまで攻めたてゝ來た場合は、かねて墻壁上に積み重ねて置いた小石を匪賊に投げかける。まるで千早城の戰術そつくりである。かうして、時には二日も、三日も、戰慄の籠城を續けることもあるといふ。

第二に集團する理由としては、水である。北支の地下水は、どこでもいゝ水が、而も多量に得られるとは限らない。そこで部落集團地の選擇は、この水が中心になり、水を圍んで集團が太つて行く。家畜の飮料水は別として、炊事用の水は、部落にでも戸々にはない。十數戸が共同使用するものが多く水が少く水質が良くない地方に行くと一部落に二つか三つの井戸しかもつてゐないものさへある。

第三に、北支の農家は、家畜の共同使役、農具の共同使用、勞力の共同、日雇稼ぎと言つたことに、日本などのそれとは趣きを異にして、集團居住が便利な場合が多い。

第四には、平野の住居を分散することは、風あたりが強く、又防寒のためにも集團がいゝやうに思へる。

北支農家の集團は、凡そ以上のやうなことが、理由づけられると思ふが、何んと言つても第一の理由、それに第二の理由があげられ、第三の如きは集團してゐるからとも言ひ得るし、第四の如きは、筆者のつけたりに過ぎないかも知れない。

何れにしても、北支の農家の集團はどこへ言つても例外が無い。これを飛行機で空から眺めると、北支平野はあたかも碁石をばらまいたやうである。汽車の窓から眺めて、耕地の廣い豐かな農村に驚いたものも、この碁石の羅列を見ては、北支平野の人口密度に、も一度一驚を喫するであらう。而も、その碁石が粗密なく一樣にばらまかれてゐる光景は、誠に壯觀である。

たゞ地帶によつて、粗なるところと密なるところがある。粗なるところは渤海沿岸のやうな、土地が惡くて、生產力のあがらない地帶で、膠濟沿線や京漢沿線などのやうな豐饒な地帶は密である。

山東中部濰縣の農村に行くと、甲の部落から乙の部落へは、呼べば答へる位接近してゐて、一戸當の耕地面積も極度に小さく又生產力は極度に高い。又黃河下流のデルタ地帶に行くと、隣り部落は遠く水平線に、浮島のやうにかすんで見える。

そこで、これも農村調査の常識として、部落集團の粗密によつて、凡そその地帶の土地の肥瘠の度合、生產力の程度が窺はれるものである。

さて、話の序に、部落の警備は、以上のやうに事あれば、部落民は協力してこれに當るものであるが、平時はどうしてゐるか。

北支の農村には、從來から保衞團といふ組織がある。十部落か二十部落に對して、一團の割合でその內のある部落に屯してゐる。團員は各部落より派遣したもので、一團十五、六人からなり團員は銃器をもち待機の姿勢をとつてはゐるが、元が土百姓の集り、これと云ふ訓練もしないので、まさかの時に間に合はない。經費の一切も亦部落農家の所有地に比例して負擔するもので、服裝、銃器、實彈など團員一人當り月十四、五圓のものらしい。普段は屯所にごろ／＼してゐて管轄區域でも廻るといふやうなことも餘りしない。

部落では又特に貧乏部落でない限り常雇の警備を置いてゐる。給料も月六七圓位なもので、部落のはんぱものがこれに當る。警備といふよりも、部落の小使役と言つたもので、實際の警備には役立たない。それでも銃器をもつて、腰には彈をたばさんでゐる。四六時中部落の入口に立つて、部落を通過する旅人に、一應の注意を拂ふのである。田舍の習慣として、他の部落へ這入る時は、部落の門の外で騎馬のものは馬から、馬車のものは馭者が下りて部落の中は牽き馬するのが、禮儀とされてゐる。かうしたところをにらんでゐるのが、部落警備員の役目である。

部落では警備員の外に、富農などは銃器をそなへ、彼又自ら屋敷にいかめしい墻壁をめぐらし、時にはこれに銃眼などをつけ、常雇の警備のものを置いてゐるものもある。

部落で使つてゐる銃器は、多くは火繩銃で、音を立てゝ景氣づける位が關の山である。たとへ部落が總動員しても、火器を携へた兵匪の前には、手も足も出ない。

可園雜記 三

加藤新吉

北京の西部並に北部、所謂西城並に北城に多數日本人が住むといふことはそれこそ北京の歴史始つて以來の出來事である。北支事變始るまでの日本人の居住區域は東城のほんの一部、東單牌樓を中心とする一小部に限られて居た。それが今日になると、市內到る處其聲を聞かざるはなく其姿を見ざるはなき盛況である。

事變の直前に於ける在留邦人八百、過去に於て邦人の事業最も華やかなりし時でさへも三千人。今や五萬と云ひ六萬と數へる。勿論この外に、子女の教育の爲に故郷に殘り、或は住宅が無い爲に來るべくして來られぬ家族がある。而かも汽車は日々千人の日本人を北京の驛に吐き出す。假にその一割が留るとしても月にして三千人、年には三萬六千人、正に亞細亞民族の興隆時代、それを指導する日本人の飛躍時代である。

北京邦人の頭痛の種子は住宅難である。家はありましたかといふのが日本人同志の挨拶である。高いの安いの、廣いの狹いの、さては遠い近い等すべて問題ではない。日本人は小さく狹く住むのが好きかと支那人が怪しむ位、このところ小間切住宅が簇出する。支那人から二三軒借りて小間切にして又貸をすると月に數百圓浮上る、安月給で働くなんてをかしくて、といふのが日本人中間家主の肚の裏である。

日本人はどうしても疊を入れる。ゆかあげ坪十二圓、疊一疊六圓、八疊で百圓はかゝる。風呂と手洗と便所とのお粗末な設備に私の場合は六百圓かかつた。而も一月にして壁は落ち天井は破れ風呂釜は漏り扉は一枚も閉まらなくなつた。一二年で儲けて歸る氣だと聞いては文句も云へない。その癖、昭和營繕商會などと立派に聖代の名だけは冠つて居る日本人である。

日本人に家を貸すことを支那人はひどく嫌がる。半は氣候風土に對する無智、半は他國文化を尊重する氣持の缺如、もつと端的に云へばどうしても住むことの必要と儲けたい慾望とから無暗な改造をするからである。東單牌樓から東四牌樓に到る大街及其東側の胡同の如きは、もう北京ではなくなつたと言ふ人がある。そこでは新しいペンキ塗やネオンの看板が巾をきかせ、胡同の入口といふ入口には旅館、料理屋カフエー、質屋、何れも日本名だけを並べた廣告門がそり返つて居る。

さる日本人が、俺は泥の壺を提げて北京近郊の民家を昔の色に直して歩くと敦圉いた。近郊特に線路に面した壁といふ壁が老篤(ロート)目藥、仁丹、若素(わかもと)、中將湯、森永牛奶糖(ミルクキャラメル)等の廣告でいち早く塗り潰されて居るのだ。北京在來の色調も情緒も斯くて滅び、北京の都雅も閑寂も吹き荒ぶ亞細亞の嵐に失はれると老北京人は長歎息して已まない。

嵐に立つ日本人は極て多忙である。こゝ一二年で儲けねばならず、二三年の任期中に功を立てねばならぬとすればそれも道理、支那人を押退けて走りまはる。支那人は呆れて見てゐるだけだ。だが、濟南、青島、上海を占領しても忽ち逃げ歸つた日本人だ、どうせ長くはないと思つて居る。蒙古百年、滿淸三百年、今度もせいぜい百年の辛抱と彼等が考へてゐないと誰が保證し得るか。大陸民族と島國民族との氣の長さ加減は、梯子なら段がちがひ算盤なら桁がちがふ。



天津の租界

福田清人

まつしぐらに走る列車の外には、黄いろい色ガラスのやうな世界に、烈しく搖れてゐる樹々の梢があつた。その世界は時々一層濃くなつて、搖れてゐる樹々も低い民屋の姿もかくしてしまつた。さうした蒙古風は、天津の市街もすすけた霧のなかにでもおいたやうに、すつかり包んでゐたのである。

僕は北京の東安市場で求めた一圓八十錢の安ヘルメツトのふちをしつかり握り、人間の顏面の持つ砂塵の進入する空間をなるたけ縮少させようと泣きだすやうな表情にゆがめて、驛頭につきたつた。

ホテルに向ふ自動車のなかで、ボオタアは言つた。

「旅客機も今日は著陸できないので、そのまゝ北京へ向ひましたよ」

北京もこんなだつたら、どうするだらう」

「さあ——」

と、ちよつと考へこんだが、自分が果斷な飛行士でもあるかのやうに、

「二、三度廻つてみて降ります」

と決然として言つた。

ホテルは街角にあつた。窓の下を、電車が走つてゐた。その電車は、運轉手のたつ前面の車體の面を、對角線で四分して、その線で作られる四つの三角形の部分を、赤色と黑色とにこもごも塗つてあつた。それはいかにも刺激的な色彩であつた。窓の下の停留所に折から夕暮で家路をいそぐ勞働者達が狹い昇降口に、先を爭つて押しあひへしあひしてゐた。

人の動きも、俥夫の走り方も、こゝでは非常にあわたゞしく、北京のやうな悠長さはなかつた。僕は事變直前緊張した上海の租界を思ひだした。天津はたしかに上海の感じに似てゐた。

僕はホテルに行く途中、自動車の窓から租界の境界線のものものしい警戒を見た。一方の境界には鐵條網がはりめぐらされてあると、一方には鐵板がずつとたてられてあつた。鐵兜に著劍の銃を握る兵士の姿も、緊張してみえた。これは一種の國境である。

いつたいに內地の日本人が、外交とか國際的經濟事情にうといのは、國境といふものを四面の海でぼかされてしまつてゐるせゐであらう。ヨーロッパ諸國のやうに國と國とがすれすれに肩を接して、せりあつてゐるのと事情がちがふ。

ところが、上海やこの天津では「租界」といふ國境のミニアチユアがある本國の東洋の出店として、狹いながら中支、北支の廣大な地域を作用する各國のエネルギイが、こゝではジワジワと煮えたつてゐる。土地の人はいきほひ內地以上の現實問題として強い利害關係でこゝをにらみつけてゐる。

九時過になつて、やうやく淡闇が流れだした。その前、風も靜まり、驟雨さへあつて、すがすがしい夏の宵であつた。僕は灯の光の明い方面にむかつて步きだした。すると街路の兩側に土囊が一杯つまれ、鐵條網がはられて步道一杯だつた。通行人はそこでは細い列になつて通らねばならない地點にきた。そこは日本租界の僕のホテルから三、四百メートル程の地點であつた。

通りぬけようとすると、支那の警官みたいな男が、險しい表情で、なんとか言つた。入つてはいかんのかも知れぬと思つてひきかへしたが、境界の向ふは、日本租界側とくらべて、光は一層輝いてにぎやかなのだ。

翌日、晝間、電車線路のカーブしてゐるフランス租界の中心をずつと步いて白河の岸へでて川ぞひの十五路線をつたつて日本租界へ歸つた。

日本人へ對して、いくつかのテロが行はれ、しかもその隣りの英租界當局に對しては、その日正午をもつて、テロ犯人引渡しについての期限つき交涉の當日で、なんだか僕の步調も散步するといふ悠々たる步調をともすれば亂しがちだつた。今度の旅で直接見たことだが、滿洲ではもちろん大きな意圖をはらんで、建設の進行は一筋にすすんでゐる。蒙疆地區でも、いかにも組織だつたまとまりで、あの半沙漠のやうな原野にも秩序がたつてゐるのを感じた。

北支——北京は朱や綠の美しさに、古びた宮殿がおちつき、市民の群も表面平和さうで、新しきものも、この都會のもつ長い歷史のなかに溶かしこまれさうで、北支の新しき面は僅かに接した人々の口吻にのみによつて知らされたが、今天津に立ちよつて初めて生生しく險しい現實を眼の前につきつけられた氣がし、北支を開く最も大きい鍵の一つが、こゝに半ばさびて光つてゐるのを見た。

旅趣さまざま

大江賢二

北京で一番好ましい時刻は黄昏のひとときである。暮れなづむ夕空が海のやうに碧く、殘んの明るみを燕と鳩の群が斜交(はすかひ)にとび交ふ。

そして夕べとなり、アカシヤの蘂みが綠つぽく匂ひはじめると、幹が白々と浮彫のやうに姑娘(クーニャン)のあらはな脚ともまがふ美しさが、旅愁に灯をともす。

幹を白く塗つたのはいひ思ひつきである。害蟲と夜のドライブの災害の豫防にも增して、都市の美しい粧ひを扶ける。北京の古めかしさに近代的な新鮮味を綾なしてひときは目立つ。

☆

北京の萬壽山、大同の石佛寺、その他の名勝古蹟を訪れて、あたら落書の多いのには眉をしかめさせられた。おほむね自分の住所氏名を記念のよすがとした向が多く、その心根は頷けもするが美觀を害ふことは夥しい。偉大な藝術をお互に保ちたい愛情がのぞましい。この儘だと今に千社札を佛像に貼りつけ、それはまだしも商賣廣告まで仕兼ねないだらう。寒心に堪へない。

☆

古北口の長城、正太線の娘子關、共に北支の奇勝であらうが、私は大同と太原の間の、寧武に近いあたりの雁門關の峯つづきの風景が忘れ難い。

山西の深く抉られた地隙(ちげき)を縫うて、大まかに進む車窓は實に雄勁で荒々しい。ピカソの畫に似てゐる。荒々しい線の中に、たとへば、谷間には柳が花ひらき、童があそび、放牧の羊は肥り交代をしたトーチカの兵隊は髭を剃つてゐる。この調和。主觀だけをむきだした描寫は、小說にも繪畫にも今事變を描いて失敗をしてゐる。心すべきである。



☆

包頭の近くて、草原に群れた駱駝のすがた。草原には、小さなあやめが咲いてゐた。駱駝の子が列車に驚いて走る。小さな背中の瘤がへうきんに動きゐる。黃河がその向ふでどんよりと燻(いぶ)されてゐる。おや、子供が駱駝に乘つて萬歲をしてゐる。そこで私も窓から手を振る。……

☆

どこまで行つても、この廣い土地は心ゆくまで耕されてゐる。平地は勿論のこと、山の頂に至るまで丹念に拓かれた支那。乾いた耕地へせつせと水を汲み、黃塵の中で默々と耕してゐる。なまけものは支那の農民にはゐない。むしろ、われわれ日本人は、支那へ來ても日本人同志の間の商賣だけを競ひ合ひ、なまけものと云はれても返す言葉がない。悲しいかな。

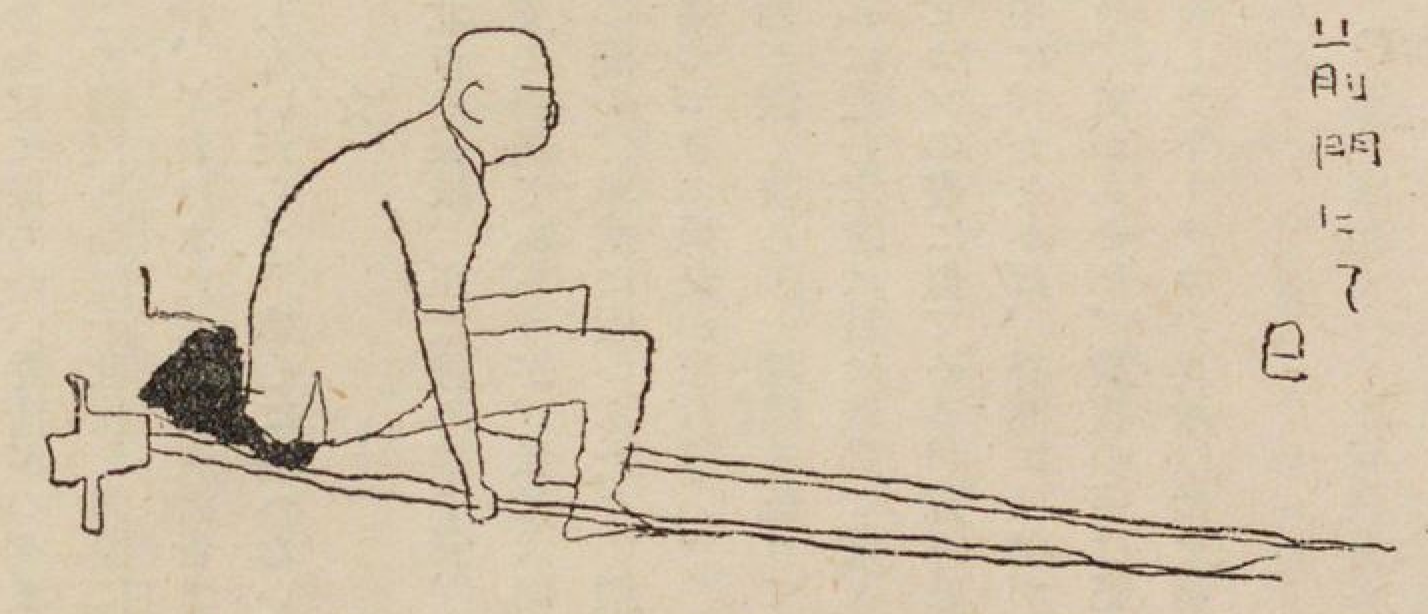
☆

月が出た。巷には景氣のいゝ騷音が滿ち、一體どこにあの戰爭の緊張があるのだらう。……私は、或るいら立たしい想ひで旅裝を整へはじめた。

北京の印象

甲斐巳八郎

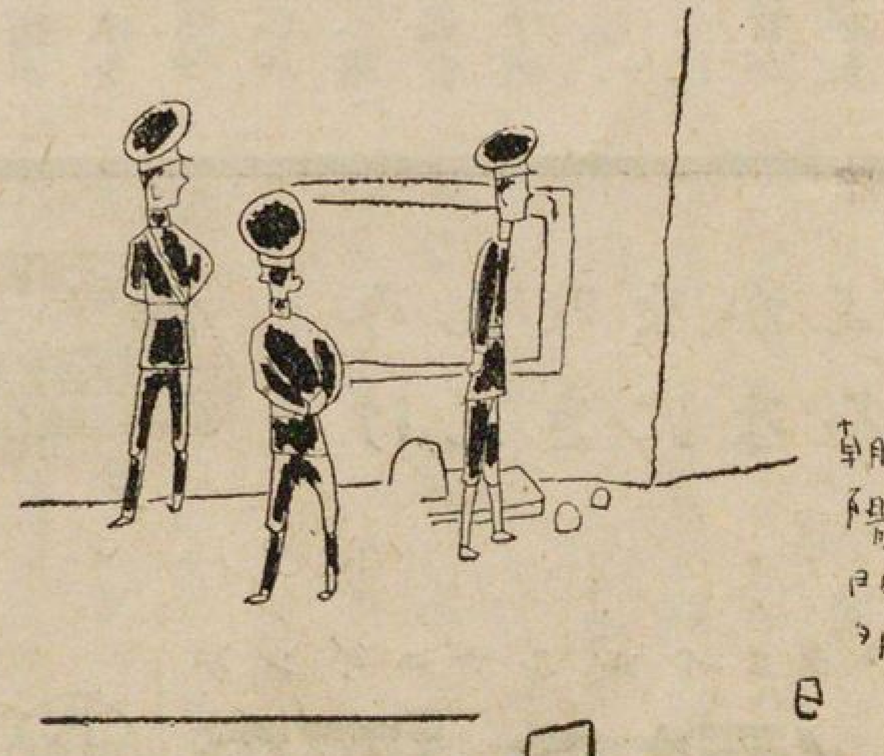
俥をよびとめて一ぺんで應じる俥夫は老人のヨボヨボにきまつてゐる。さうしてその俥も使ひ古した、うす汚いにきまつてゐる。乘ると遲い。五、六丁も走つてゐると必ず十臺位は追ひぬけてゆく。これが大連だつたら大變なことになる。乘せてゐるお客は放つたらかして喧嘩だ。



街を歩いてゐて愛嬌のあるのは、俥夫、巡補、糞夫、郵便配達夫それから女學生である。俥夫もはじめはなかなか乘せてくれぬのが腹がたつたが、二、三日するうちにだいたい乘せてくれない事情も飲み込めてくると、日本人の方で考へなくてはならぬことだし、腹もたゝなくなつて來た。まるで油の上でも走るやうに走る、北京の洋車を、それからクルクルにそりあげた、眞黒の頭からプツプ汗をふかしながら走る俥夫を、私は乘つてゐて考へると、怒る日本人の方がわるいのだと思ふ。私は北京で俥夫が一番好きてある。

次が交通巡査、これも俥夫と同じ階級である。大きな傘のなかにをさまつてゐるのはまだよいとして、照りつけの大道に突つ立つて、手だけは文明人のやうに動かしてゐるが、顔をみてゐると決して文明人ではない。どうかすると俥夫よりも景氣のわるい人のよい顔がある。

糞夫が景山下の紅い大きな塀の下をのつそり歩いてゐるのも、如何にも北京らしい。景山と糞夫、私は北京の大きな二つの影を夢みてゐる。



郵便配達夫は街の道化者である。俥夫や交通巡査や糞夫のおかみさんや子供の仲よしてある。深いみどり色の帽子、服を纏つて自轉車で走つて來る老人配達夫を、路次の入口に集つて待ちかまへてゐる、おかみさんや子供をよく見うける。

女學生は生意氣であるが可愛いゝ。あんまり何時までもみると、すごい目でにらみかへされるがこはくはない。淺黃色の、割合に丈の短い大掛兒を纏つて、腿もあらはに自轉車で、ツバメの様に走つてゆく。肩口の短いのを更にまくしあげてゐるのは、意氣のよいところを見せたつもりだらう。

中央公園でいゝ氣持になつて、南池子へ歩いてゐると、鷺が頭上をギヤツと一聲啼いて通り過ぎた。

東單牌樓から西單牌樓のあの通りのアスフアルトは全く美しい。殊に夜、音をたてないで走る洋車の灯りが、次から次に通りぬけてゆくのが、アスフアルトに映つて、金屬の車の轉つてゐるギラギラ光るのがまるで夢のやうである。

私達はあかい三日月のかゝつてゐる夜空と、槐樹の下を走る洋車を飽かずながめてゐた。

淺黃色の大掛兒を纏つた姑娘が、自家用の景氣のよい俥で西單牌樓の方に走る。おほかた新新か長安戲院の芝居見物だらう。俥の殘していつた風には姑娘の胸に挿した花の匂ひがする。

支那芝居雜觀 三

石原巖徹

◇臉譜（隈取）に就て……

支那劇と云へば、直にあの奇怪な面（めん）みたいな顏の隈取のことを普通日本人は考へるであらう。それが特に眼を惹き易く又派手であるために、よく圖案やカットなどに用ひられ、玩具に作つて土産物にもされるところから支那劇の觀念を代表する物の如くに思はれてゐるやうだが實際は必ずしもさうでなく、隈取をする役は大體に於て端役が多い。全體から觀れば隈取をしたのが主役となる割は非常に少い。又あの隈取が餘りに濃厚であるために知らない人は面（めん）を被つてゐると思ふことがあるが、面は殆ど用ひない。面は一見してそれと判るやうな極めて不細工なもので、普通の劇には用ひない。

隈取をする役の地位は重要でないにしても、無くてはならない役である。この隈取（臉譜）は支那劇學中でもむつかしいものとされ、內容は複雜多岐に亙り、到底一朝一夕に說き盡すことは不可能であるが、こゝには大體の概念を述べて置く。隈取の發生理由は、劇に於ける「顏作り」卽ちメイキヤツプに在ることは勿論であるが、他の國の劇に於ては、性格表現のための顏作りは割合に簡單で、眉を太くするとか眼のふちを黑く染めるとか、主として惡役の場合にそれらしい作りをする程度である。支那劇ではそれを非常に複雜化して、顏の作りに依て善惡さまざまな性格を表現するのみならず、その人物の素性まで現はすことになつてゐる。善人の內にも、溫厚な人物と氣性の激しい人物或は言動の粗暴な人物といつたやうな區別があり、惡人の內にも、小泥棒から天下を盜む大奸まであり、土豪劣紳もあれば綠林の豪傑もある。これらの微細な性格の區別がすべて異つた隈取に依て表現されるのだ。

殊に興味のあるのは歷史上の人物に對して支那劇の作者がその人物批評をこの隈取の仕方に依て示現してゐることである。例へば三國志に於ける英雄魏の曹操或は曹の司馬懿（仲達）に對して、大白臉卽ち顏全體を眞白に塗る隈取を與へてゐるのは、これら人物を大奸と見てゐることの表現である。

隈取の主要部分は色彩であつて、色彩により人物の性格を表現するのが約束である。この約束の概念を述べれば白は前述の通り奸惡を意味する。顏を眞白に塗つたのは大奸であつて、正義派ではないが偉大な人物である。紅色は熱血男兒を意味し、紅色を主とした隈取は關羽に見るが如く、忠心義膽の人物に用ひる。紫色は紅色よりやゝ性格の弱い人物に用ひる。黑色は正義派であつて、粗暴な性質の人、或は氣性の激しい人物に用ひる。藍色は兇猛な性質の人物に用ひる。黃色は奸物までには至らないが相當陰險な人物に對して用ひられる。綠色は怪物及蠻人（中國人以外の夷狄）盜賊の手下等に用ひる。金色及銀色は神仙の類に用ひる。五色を混入して複雜な顏を作るのは主として盜賊或は賊軍に當る部隊の陣笠連である。

隈取の仕立は白及紅を顏全體に塗る役以外は大體額と兩頰の三區劃に分けて對照的に規則正しくするのを原則とし、特定の人物にはその上に種々の模樣を加へる。均勢が無く出鱈目な模樣を描くのは盜賊の類である。西遊記の孫悟空は猿の顏に似せて作る。

北京にて

小田嶽夫

或る夜私は東四牌樓附近の或る日本人經營の食堂で友人のA君と一緒にビールを飲んでゐた。支那人の女給が四人ゐて、そのうちの二人が私たちのそばに掛けて酌をしてゐたが、しばらくしてから入口のカーテンの隙間から顔をのぞけてしきりに何か言ふものがゐた。五十恰好の支那人の女と十餘りの男の子で、言葉ははつきり聞き分けられないが、何か私たちのそばにゐる女給を罵つてゐるらしかつた。

女給たちの言葉から察すると、彼等は殆んど毎夜のやうにさうしてゐるらしく、女給たちも我慢が切れなくなつたらしく、意趣返しにコップに水を注ぎ、それを彼等に向つてぶつかけた。彼等はすぐに身をかわしたので水はかからなかつたやうであつたが、ちよつとの間姿をかくしてゐた後で再び又老婆が姿を現はし、今度は肩の當りをつき出して、しきりに、水がかかつたと言つてわめき出した。明らかに一種の因縁つけである。さうしてゐるうちに突然奥から一人の男が疾風のやうに驅け出て來て、見る間に物も言はずその老婆の胸を力まかせに衝き、老婆は地上に昏倒した。男は尚もビール瓶を取り上げて、打たうとするやうな構へをしたので、私たちが

「不要打、不要打」と言ふと男は又無言で奥へ引つ込んで行つた。

後で判つたのだが、その男はその店の主人の日本人であつた。それを私もA君も支那人だとばかり思つてゐたので、支那語で物を言ひかけたりしたのだつたが、それについて私はA君に言つた。

「どうもへんだと思つた。支那人が女にたいして、しかもあんな年寄りにたいしてあゝいふ非道い仕打ちをすることが絶對に無い筈なんだ。だから僕は實にびつくりしたんだ。」

A君の傍らに、私の斜め向ひに掛けてゐた割合年增の女給はかなり興奮した表情で俯き乍ら、じつと私たちの言葉に耳を傾けてゐた。日本語も可なり判る女給なので、その彼女の樣子に氣付いてすぐ私が、

「さうだらう？」と支那語で訊いたら彼女は苦しさうな表情で、無言でうなづいた。この一つの出來事について私は特に誰を非難しようとも思はない。女給たちがこの場合水をかける位は當然過ぎる程當然のことであらうし、日本人の主人が何日もこらへてゐた後のことだとしたなら日本人的な怒りの爆發であれ位の擧に出るのは先づ普通のことであらう。事件のもとをつくつたのは明らかに支那人の老婆であるが、支那では宿屋とか飲食店で從來女が客に仕へるといふ習慣の無かつたのが、さういふ仕事に從ふばかりか、その相手が日本人であつたりして見れば、世間に疎い固陋の老婆が彼女等女給たちに好い感情を持たないのも無理は無い氣がする。そればかりでなく、むしろ彼女の行動は一般支那人の感情を代表してのものとも見られ得るのである。

こんな話をここに持ち出したのは他でもない、日本人が支那に住み支那で仕事をして行くには思ひもかけないところに困難がひそみ、又思ひもかけないところで支那人と摩擦しなければならないだらうといふことが、かういふ例からも察せられると思ふからである

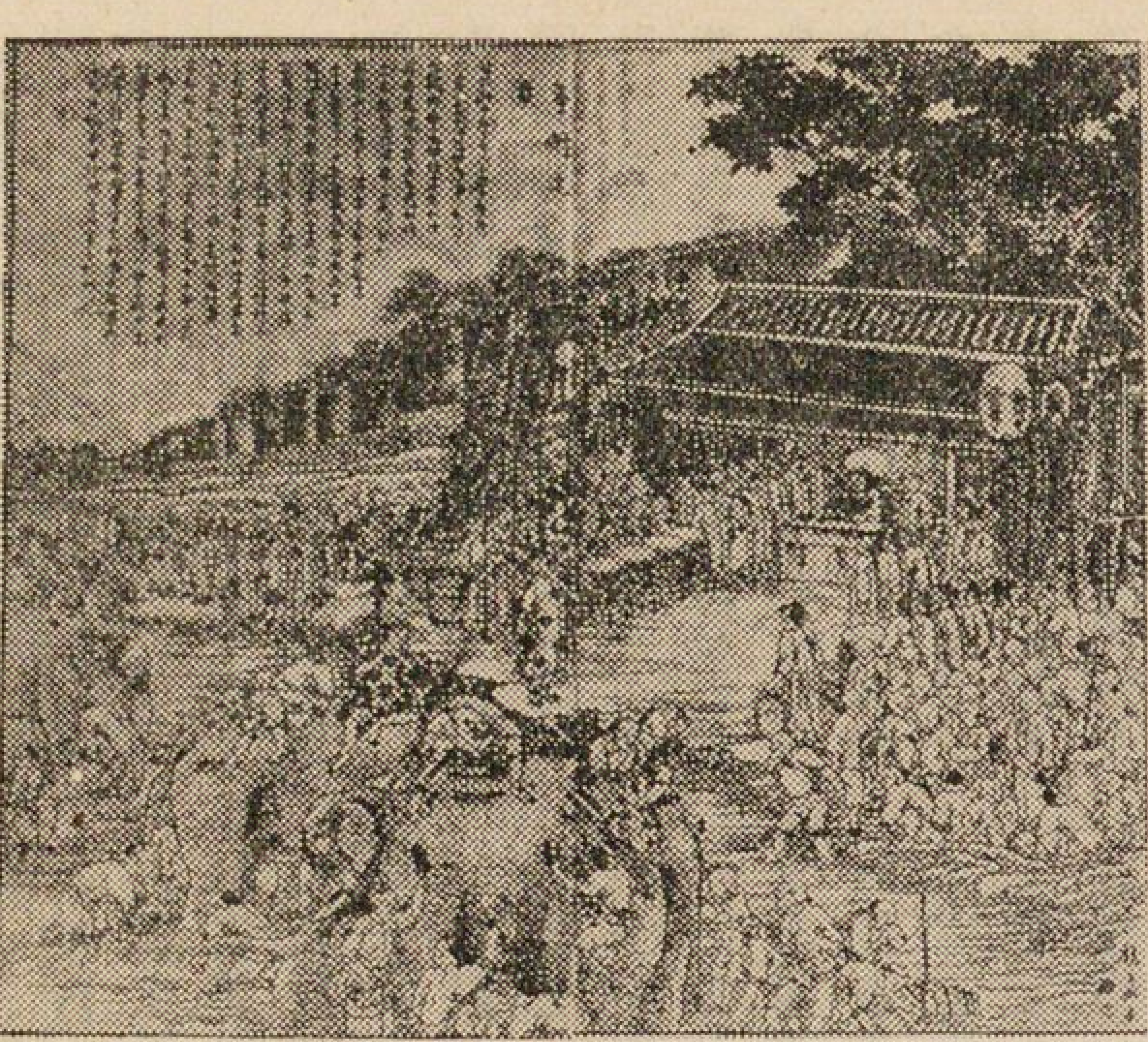
かの老婆は昏倒してからしばらく高聲を擧げて泣きわめいてゐた。そしてそのまはりには彌次馬が黒山のやうにたかつてゐた。恐らく日本人が支那人のか弱い老婆に殘虐な仕打ちをしたといふことは口から口、耳から耳へと電流のやうに市井につたはるであらう。そして日本人にたいする惡感情は一層支那人の心に根強く培はれることであらう。が、この惡感情にたいしては日本人には辯解の方法が無い。ここが日本人にとつては辛いところである。

例へば私も北京へ來てから、ここで會つた支那人のうちの二三の人から直接に又婉曲に日本及日本人にたいする非難の聲を聞いた。そしてさういふ場合私たちは彼等が感情を包みかくさずに言つてくれたことを快くは思つても反對に支那及支那人の惡い點を衝くといふことは今日の日本人の立場としては容易に爲し得ないものを感ずるのである。ここに實に我々の言ひ難い苦痛がある。

支那人の日本人にたいする感情の訂正のためには結局我々の絶えざる反省と長い忍耐を必要としなければならないのであらうが、和やかな空氣の中に我々の側でも言ひたいことを言へるだけの親密を支那の人々と持つことが我我の支那生活に於て今日何よりも大切なことの一つに思はれる。

象を洗ふ

林　二　郎



本誌前號「北京ごよみ」に舊暦六月六日の洗象（シイシアン）のことが載つてゐる。風變りな珍らしい行事で清朝時代宮中で象を大切にしたことが窺へて面白い。

六月六日はもともと大きな節（行事や祭祀の日）ではなく「垢の日」と呼ばれて宮中では歴代皇帝の實錄や御製文書の蟲干しが行はれ、民間でも婦女子が入浴して汚れを落した。

この日には人間ばかりでなく犬や猫まで川や池で洗はれたが、一番大きなものは南方からの貢物である象を洗ふことであつた。

王漁洋に洗象の詩があり

玉水輕陰夾絳槐　香車筍轎錦成推

千錢更賃樓窗坐　都爲河邊洗象來

と書いてあるのを見ると貴婦人の車、貴顯の轎が集つて綺羅星の如く、千金を投じて附近の家々の窓を購つたのだから壯觀だつたらしい。

象を洗ふのは一年に一度この日だけで宣武門外のお濠で洗ひ、交配も行はれた。

象は宮中で非常に珍重され俸祿を受け、位階勳等を持つてゐた、もし罪有らば位階を下げ罰したとある。

同治帝（穆宗）が帝位に上つた時、天下の恩貢（科擧の試驗の「秀才」を三年乃至五年に一度北京に集め謁見を賜つた、その選に預つた者）に謁見を賜つたが朝見の儀の時競つて天顏を拜せんとして席次を誤り、大臣席に入り込んで御感を害ねた。これを聞く者「恩貢の威儀象に劣る」と歎じた。

象が宮中に送られる時は先づ演象所に收容されて禮儀を敎へたが別に錦衣衞（宮中侍衞所）に馴象所があり象と象奴（象使ひ）を管理せしめた。

大きな儀式には象が總出で寶輦、寶物を牽き普通の時は六頭づつ使つたが病氣の時は病舍に收容し象使ひが象に代つて參內した。

寒い時にはよく斃死したが、馴象所から兵部に報告し兵部から上奏して檢屍の後、光祿寺（宮中の宴席を司る官署）に送つた。手續が面倒で送られる頃は死臭紛々として沿道の者が閉口し腐肉を御膳に上すとは何事だ、とその始末方法に反對が多かつた。勿論腐肉を實際には使はなかつたであらう。

圖はその洗象の光景で光緒十年（明治十七年）刊行の「點石齋畫報」掲載のもの、當時の狀況が判つて面白い。

說明文に象の習性をこまごま書いてある所を觀るとよほど當時では珍しかつたらしい。圖中の看視役人は鑾儀衞（寶輦管理者）の主官で、銅鑼や太鼓、旗など物々しい道具立てである。

傳書鳩

◇

臨時政府建設總署では設立以來一年の準備期間を經て、愈々本格的軌道に乘つて活躍を始めた。北支六大都市計畫を始め公路、水利に及ぶ綜合的建設計畫を樹立して本年度豫算二千五百萬圓を計上した。そのうち公路計畫の經費は一千二百五十萬圓。北京を中心に北京―通州―天津線、北京―石家莊線北京―南口―張家口線、北京―古北口線等の近代的放射道路の完成を目指し更に石家莊から順德を經て冀中地區を横斷、濟南に達する一大幹線道路の完成が建設日程に加へられてゐる。公路あるところ匪影なしで、公路建設の進捗は即ち治安工作の進捗を裏書きするものだ。

◇

長い北京の歷史は、政治の中心地としてのそれであつたが、大陸開發の新事態は古都北京に產業の一大中心地としての新生面を與へ、のみならず急激な邦人の流入と治安恢復にともなふ華人の飛躍的集中で未曾有の發展を示してゐる。從つて古都北京は建設の流に押されてゆがめられた發展相貌を示して來た。それは恰も青春期のニキビの如く薄汚く思はれた。新しき北京の都市計畫こそ北京を愛する者の等しく待ち望んだところ。臨時政府建設總署でも古都北京と新北京の調和はあらゆる建設プランのなかで最も頭を痛めたがこの程漸く成案を得た。案によれば、「新北京」といふべき商業住宅地區を現在の西郊に、工業都市を東方に建設することゝし、本年の道路計畫から直に實施することゝなつた。現市街は飽くまで世界の公園としての觀光古都北京の姿をそのまゝ保存することに全力を傾けるといはれてゐる。西郊の商業住宅區域は大體六百五十萬坪、二十五萬人を收容し得る住宅街とする豫定。上下水道を架設し道路はいづれも近代鋪裝で固め、名實ともに衞生都市としての新生北京とする。行く〳〵開發會社、華北交通、華北電々などの大會社もこの方面に移し、京山、京漢、京包各鐵道始終點も新市街に移される筈である。

◇

邦人の北支進出の素晴しい躍進譜は在留邦人壯丁檢査の上にも奏でられてゐる。昨年北京の壯丁は三百九名であつたが、本年五月十六日からの壯丁檢査は一躍八九五名と、約三倍の增加。大陸現地で鍛へられた壯丁の四肢は見るからに頑健で、徵兵官以下、軍、總領事館、民團關係者等の列席者は賴もしげに顏を輝かしてゐた。

◇

大陸交通の尖兵四千二百、名づけて「鐵道青年隊」と呼ぶ。これは大陸交通を双肩に擔ふ華北交通會社が管下全地域の青年社員を以つて組織するもので、結成式は七月上旬。平時は事務、工事に忙しい軀を、一旦事ある時は直に銃を持つて起ち上る「健全な興亞青年」を育成しようがためである。隊員は全部一定の寄宿舍に收容、將來は各地に青年道場を設け、修養訓練に娛樂に萬全を期する。因に事變勃發以來、鐵路の華と散つた英靈は四百餘柱に上る。同僚の屍を踏み越えて鐵路建設の步武は着々と進められて行く。既に興亞の日射しは曉雲を破つて中天に登らんとしてゐる。

◇

邦人の北支進出風景中の快朗異變。話は少々遡つて五月二日のこと。前日午後十一時半奉天發の第四〇三列車が正午過ぎ恰度塘沽の少し手前に差しかかつた際、二等車の一婦人が俄に產氣づき零時十五分玉の如き男子を分娩した。お芽出度の主は、原籍は長野縣佐久郡、現住新京高砂町の平原春子さん（二十七歲）で、二歲の長女康子さんを伴ひ御主人の友人で今度御主人と一緒に勤める事になつた某夫妻と同行、大同の晉北自治政府宣撫班に勤務中の夫君の許に赴く途中であつた。姙娠九ケ月のことで先づは安心して乘車したところ、旅立つ前夜の氣疲れと列車の震動の爲に出產を早めたものらしい。すは陣痛とあつて、列車長吉原辰市氏華北交通旅客課の佐藤政治氏等が親身も及ばぬ看護をし、折良く同じ二等車に石家莊滿鐵診療所に赴任途上の婦人科醫菊池健治氏が乘り合せてゐて、早速取り上げ役を引き受けた。同日四時半無事北京に着いた平原さん母子は、豫め報告を受けてゐた北京滿鐵診療所から救急車をさしむけられ、同診療所に收容せられた。汽船の中での出產はよくあることだが列車での出產は珍らしい。四〇三列車の乘務員一同は、この珍しいお芽出度に、連名のお祝ひ物を贈つて母子の健康を祝つた。

◇

天津日本總領事館當局では、最近管下區域内で、商號に「華北」といふ名稱を冠してゐる民間會社、商社に對して隨時任意出願の形式或は公文書によつて訂正取消を命ずることになつた。

これは頭に「華北」とあるために、往往國策特殊會社と混同視され問題を惹起するからで、今後は「華北」の二字を冠した民間會社、商社の新許可出願に對しては絶對に不許可の方針をとることゝなつた。

◇

東京實業組合聯合會主催の北支、中支經濟視察團五十餘名の一行は六月十七日北京に着いた。翌十八日北京高女講堂で、東京市産業局北京出張所、居留民團、北京日本商工會、北京日本商工會議所の四團體主催の歡迎座談會が開催せられたが、その席上での某貿易關係者の談話の一節。――近年の北支における日本商品排斥の歴史を回想すると對支二十一ヶ條要求の際および濟南事變の際が最も激しかつた。いづれも期間が永く、實に猛烈で何度か引揚げを考へたが、それでも何とか營業を續けることが出來た。これは當時の排日が一部の煽動者の仕事であつたので市民は決して日本人と手を切る氣持を抱かなかつたからである。ところが、現在の中國人の氣分は表面的には非常に日本人と手を握るやうに見えるが、事實は今日ほど不可解な狀態はない。これは恢復するには恐らく相當の長年月を要するであらう。日本人と手を組めばきつと出し拔かれるといふ日本人觀が彼等の腦裡に深く刻み込まれてゐるので、若し當地で日本人が事業をやらうといふなら、百年後の大計を樹て目先の利益に捉はれない覺悟が肝要である。

◇

大陸衞生の向上は、興亞院文化部においても最も力瘤を入れてゐるところ大陸建設の根幹が人的資源の確保、卽ち健全な精神と健全な肉體の持主の大陸進出から、その第一歩が踏み出される。ところが北支、蒙疆における衞生狀態の不良不備は既にながく識者寒心の的でありながら根本的な對策が講ぜられなかつた。殊に傳染病の流行、風土病の蔓延はそれが跳梁のまゝに放置され、あらゆる疫病は四季を分たず流行する狀態で、例へば昨夏のコレラ流行をはじめ山西、陝西兩省を中心のペスト、山西の惡性發疹チフス、北支南部地域マラリヤ等は、北支進出邦人に大きな不安を投げかけた。然も今日まで適當な病因除去法を指示提供する研究機關なく、また豫防液、血清、ワクチン等の製造機關もなく實に憂慮すべき現狀にある。この時に當つて、華北交通會社が、大陸保健衞生の向上を目指して、華北交通會社衞生研究所（假稱）の設立を計畫したことは、時宜を得たものと云へる。同研究所は保健衞生の指導を目的とし、細菌、血清化學病理衞生等の調査研究をなし、同時に血清、ワクチン等衞生豫防藥劑の製造もする豫定で、機構は保健調査として環境衞生實驗室（衞生、化學）地方病調査室（病理、細菌）を設け、防疫方面では血清實驗室、細菌實驗室、獸疫實驗室等を設ける筈である。

◇

治安確立の進行狀態は中國人兒童教育の上に反映する。これ迄とかく不安を傳へられてゐた北部京漢線沿線一帶も、〇〇部隊の努力によつて、この方面各縣の租税收納や閉鎖されてゐた小學校の開校狀況は、戰禍による被害を克服して急スピードの復興を示してゐる。なかにも大興、苑平、良鄉、涿、定興、新城、淸苑、定、望都などの主要各縣においては良好で、小學校は事變前六千三百六十三校であつたのに對し、五月末現在で開校したものが二千六百八十校に達し、生徒數は事變前約十二萬であつたのに對し九萬餘と迫つてゐる。

◇

躍進途上にある北支工鑛業界における技術者需要は、內地滿洲のそれよりも激烈で、所謂「引き拔き」がしきりである。そこで內地における人的統制も當然北支に及ぶべきものとされ、先頃北京總領事館では六月十六日告示を以て「厚生省の學校卒業者使用制限令に本づき北京總領事管內において、昭和十五年度卒業の工鑛業關係學校卒業生を使用せんとする者は、本月中に領事館經由使用認可書を主務官廳に提出すべき」旨を一般に告示した。

◇

天津の英租界隔絕問題を繞つて支那民衆の間に動く一つの空氣。――我が斷乎たる對英租界態度を傳へ聞いた天津特一區、特三區の支那街野菜行商人は十七日夕刻、特一區某所に集合、今後野菜類の英租界への持込みおよび運搬を中止する決議をなし、十八日からは日本租界および華街方面に行商することゝなつた。零碎な口錢でその日暮しの行商階級がかゝる思ひ切つての決議は、卽ち英租界への反感の發露であり、一面皇軍への信頼の深まりつゝあることを物語るものだ。

◇

傳書鳩

北京ごよみ 八月

八日（舊曆六月二十三日）

▽白雲觀開廟。西便門外にあり、開廟二日。火の神と馬の神のお祭り。

▽馬王廟開廟。新華門外にあり、この日馬の神のお祭り。昔は騾や馬を養ふ民家や各機關では各々お祭りをした。

九日（舊六月二十四日）

▽關帝廟開廟。永定門外にあり、開廟二日。關帝即ち關羽の誕生日と謂つて、市中の關帝廟でもお祭りをする。民家でも羊や牛を犧牲にして祭る者あり、又茶菓幾皿かですます者もある。

十五日（舊七月一日）

▽七星斗壇。星祭りである。俗に祭斗と謂つて各道院では壇を設けて北斗七星を祭る。祭期は七夕迄。白雲觀（西便門外）東嶽廟（朝陽門外）など有名である。

▽七夕・俗に乞巧節と謂つて一般に婦女子は茶菓酒肴をととのへ巧節の宴をする。又椀に水を盛つて庭に持出し針を浮べ、水底に見る影の粗密によつて針仕事の巧拙を占ふ。これを乞巧針と謂ふ。

各劇場では「天河配」と題する應節の芝居を上演する。これは織女と牛郎の悲戀の傳說を仕組んだもので終りの方で燈籠を兩手にした美女達が古風な舞踊を見せる。

二十九日（舊七月十五日）

▽中元節。日本のお盆である。俗に鬼節と謂つて各寺廟では盂蘭會を行ひ、紙張子の鬼の判官や兵隊、雜役を乘せた船（長さ數丈或は丈餘）を作つて焚き讀經する。これを燒法船と謂つて孤魂を救ふものと謂はれ、民家でも行ふ者がある。一般に祖先を祭ることは淸明節と同樣である。

▽放河燈。この夜北海や什刹海は放河燈（燈籠流し）で賑ふ。これは、幽冥の苦を照らす意味だと謂はれるが、點々水面に映える灯はいかにも美しい。昔は東便門外の二閘で隨分

今は寂れてゐる。この夕方子供達は長い蓮の葉や蓮花燈に灯を入れて街中を馳廻る。唱うて曰く

蓮花燈　蓮花燈

今日はともして　明日棄てる

▽江南城隍廟廟會。外五區宣武門外南橫街東口にあり、康熙年間の所建開廟一日。兼ねて市が立つ。ここの燒法船は有名で見物人も多い。前門外の妓女達がよく詣る。

＊　＊

〔雜事〕この月北海、什刹海、中央公園は蓮の花盛りで、花見を兼ねての遊客や水を慕ふ市中の人士が出盛る。什刹海の遊樂場は前月に引續いてお盆過迄賑はふ。

お盆前になると街頭あちこちに色美しく細工した蓮花燈が賣出されて見事である。

季節の花に茉莉花、福建蘭がありて摘んで茶を薰ずる。夏の菊、白鳳仙花は酒に浸して佳い。夜來香は日落ちて殊に匂ふ花で北京名物の一つである。

果物に蓮の實、菱の實、西瓜、葡萄、桃、李など皆市場に上る。蓮の實の砂糖漬は北京土産として周知の

街頭夏の物賣はお茶賣・冷粉賣・酸梅湯賣（梅酢に匂をつけた名物の淸涼飮物）扇子賣（澤山鈴をつけた風雅な道具を抱へながら賣歩く）などそれぞれ景趣を添へる。又夏分から市中の閑人の間に蟋蟀を飼ふ者が多い。これは鳴聲を樂しむのと、一には喧嘩をさせて賭博に供するので昔は隨分盛に行はれたと謂ふ。

北京市中に阿片吸飮の道具を賣る小さな店をよく見受けるが、その隅に妙な形のものを賣つてゐる。これは瓢簞を細工した蟲入れで懷中して樂しむことも出來ると云ふ、いかにも北京らしいもの。

昭和十四年七月十五日印刷納本
昭和十四年八月　一日發　行

八月號
（毎月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社資業局資料課　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社　君島潔
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二二三番
電話九段(33)一一四一五番　三三四四番

一册定價　三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

廣告取扱
手取扱所　大阪市西區京町堀上通一丁目二五　一新社



二十一日（舊七月七日）

盛大に行はれたと記録に見えるが、

甘味。

北支軍檢閲濟

電話土佐堀九三九

胃酸過多に

ノルモザン錠

胸やけ

食後、心窩部に灼ける様な熱感がある。

噯氣、生水

ゲツプが出る、酸つぱい胃液が咽喉元へこみ上げる。

溜飲、胃痛

胃部にもたれ感があり重苦しい。空腹時に胃が痛む。

胃酸過多症は、日頃から飲食起居の不規則な人精神を過勞する人、運動不足で美食する人に多く、主な症狀としては食後の胸やけ、噯氣、生水、胃痛等を訴へます。胃然もこれを放置しておくと、胃潰瘍から胃癌になる惧れがありますから、早期の手當が肝要です。

最新の治療劑として評判の**ノルモザン錠**は、主効分硅酸アルミニウムの作用により、胃壁を被覆保護し、餘分の胃酸を吸收する外、分泌腺を收斂してたかまつた胃液の分泌を抑制し胃酸過多症を早期に治療に導くと同時に胃潰瘍への移行を防ぎます。

効能 胃酸過多、胃潰瘍、胸やけ噯氣、生水、溜飲、胃痛、胃カタル便祕、惡醉、宿醉、船暈、車暈に。

【藥價】三日分(五〇錢) 一週間分(一圓)十六日分(二圓)一月分(三圓五〇)二月分(五圓)

小粒ノルモザン……(三日分・一週間分・十六日分の三種。成分・藥價は同じ。)

製造發賣元 株式會社 武田長兵衛商店

大阪市東區道修町



定價三十錢